

(2019 年度)

専任教員の教育研究業績

広島女学院大学

目 次

< 共通教育部門 >

1. 中田 美喜子 教授
2. 西口 理恵子 教授
3. 澤村 雅史 教授
4. 近藤 友子 特任准教授
5. 前田 美和子 准教授
6. 吉田 順子 准教授
7. Daniel Hougham 助教

< 国際英語学科 >

1. 波多野 五三 教授
2. John Herbert 教授
3. Robert Dormer 准教授
4. 磯部 祐実子 准教授
5. 関谷 弘毅 准教授
6. 戸田 慧 准教授

< 日本文化学科 >

1. 佐藤 茂樹 教授
2. 植西 浩一 教授
3. 渡邊 ゆかり 教授
4. 柚木 靖史 教授
5. 足立 直子 准教授

< 生活デザイン学科 >

1. 細田 みぎわ 教授
2. 小林 文香 教授
3. 真木 利江 教授
4. 三木 幹子 教授
5. 小野 育雄 教授
6. 田頭 紀和 教授
7. 熊田 亜矢子 准教授
8. 永野 晴康 准教授
9. 檜崎 久美子 准教授
10. 塚野 路哉 特任准教授
11. 伊藤 千尋 専任講師

< 管理栄養学科 >

1. 石長 孝二郎 教授
2. 下岡 里英 教授
3. 渡部 佳美 教授
4. 市川 知美 准教授
5. 佐藤 努 准教授
6. 土谷 佳弘 准教授
7. 妻木 陽子 准教授
8. 野村 知未 専任講師

< 児童教育学科 >

1. 神野 正喜 教授
2. 三桝 正典 教授
3. 中村 勝美 教授
4. 戸田 浩暢 教授
5. 山下 京子 教授
6. 加藤 美帆 准教授
7. 森保 尚美 准教授
8. 村上 智子 准教授
9. 青山 翔 専任講師

2019 年度 教育研究業績

人文学部 人間生活学部 共通教育部門 中田 美喜子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 「情報基礎」	共	平成 31 年 4 月	(株)学術 図書出版 (148 頁)	<p>大学初年次における「情報リテラシー」科目の学習内容について順に記載している教科書である。大学におけるワープロの使い方、表計算の使い方、グラフ作成、関数の使い方、レジメ作成、プレゼンテーション作成およびインターネット・メールの常識のある使い方についてを修得するための教科書である。すべての表計算以外すべてのページを担当し、統括してまとめて作成した</p> <p>(pp. 1～42、94～148、統括編集)</p> <p>著者：中田 美喜子、記谷康之</p> <p>【関連授業科目：情報リテラシー】</p>
(学術論文等) 1. ICT を利用したアクティブ・ラーニング——ICT 利用の事例——	単	令和 2 年 2 月 29 日	広島女学院 大学論集 (67) (1-11 頁)	<p>ICT を使用したアクティブラーニングについて検討した。利用可能なツールは科目によって異なるが、講義資料はすべてウェブ上で配布される。グループ学習は、共同編集を使用して発表原稿なども共同で作成させている。プレゼンテーションの評価は Web 上で入力して集計される。集計などすべて Google フォームで実施している。コメントは SNS および Google グループに投稿させている。すべての科目は、さまざまな ICT ツールを使用することで、学生に学習効果をもたらしている。それぞれの科目に適切なツールを使用することにより、より効果的なアクティブラーニングを実施することができる。</p> <p>【関連科目：情報科学入門、情報倫理、図書館情報技術論】</p>
2. Google Classroom を利用した講義の進め方	単	令和 2 年 3 月 13 日	広島女学院 大学人文学部紀要第 1 号 (1-10 頁)	<p>GoogleClassroom を利用した講義についてを検証し、学習効果および利用方法についてを確認した。その結果、大学のポータルより使いやすく、課題提出の効果も高いことが認められた。今後文科系の教員の利用も簡単に検討可能であると思われる。</p> <p>【関連科目：情報科学入門、情報リテラシー I・II、プログラミング演習、情報倫理、図書館情報技術論、Web デザイン演習】</p>
3. 大学における情報リテラシー科目と高校の「情報科」科目との関	共	令和 2 年 3 月 16 日	広島女学院 大学人間生活学部紀要第 7 号 (1-6 頁)	<p>高校における教科「情報」は必修化されて 10 年以上が経過している。現在までのところ、実際に履修してきている学生の実態はどのようなものであるのか調査し、それに対応した大学情報リテラシー教育を実施する必要があると思われる。そのための基礎的な調査を実施し分析したので報告した。</p>

係について 一本学入学生 のアンケート調査 より				中田美喜子、山川春香 【関連科目：情報リテラシーⅠ・Ⅱ】
(教育実践記録等) 1. 初年次情報 リテラシー教育に 必要なこと一知 識・タイプ測定結 果の経年変化か ら	単	令和元年 6月	大学教育学 会第41回 大会	初年次情報リテラシーにおいて学習する内容は大学における4年間で必要だと思われる内容を検討して学習させている。情報リテラシーとしての簡単なスキルはある程度あるが、大学4年間で必要なスキル、さらには社会にでてから必要なスキルや常識は身につけていないのが現状である。今後、初等中等教育において「情報」教育が実施されることで、大学における「情報リテラシー」教育では、学生の能力を測定してレベルごとに情報スキルの向上と共同作業の方法、さらに情報セキュリティとコンピュータの仕組みと論理的思考を身につけられるような学習内容を検討することが必要であると思われる。 【関連授業科目：情報リテラシー】
2. ICTを利用 したアクティ ブ・ラー ニング	単	令和元年 9月6日	令和1年度 教育改革 ICT戦略大 会	アクティブラーニングで利用可能なICT技術についてまとめた。それぞれの利用方法と科目および、学習効果について検討した。科目ごとに適切なICT技術を利用することで効果的なアクティブラーニングを実施することが可能となると思われる。 【関連授業科目：すべての科目】
3. ICTを利用 したアクティ ブ・ラー ニング	単	令和元年 10月26日	一般社団法 人教育シス テム情報学 会中国支 部・第19回 研究発表会	コンピュータの歴史や技術について学習する学芸員科目や司書科目におけるICTを利用した学習について検討した。特にSNSに書き込んでいくことアクティブラーニング(グループ学習)を実施することで、学習が進むことを検討した。 【関連授業科目：図書館情報技術論、博物館情報メディア論】
(その他) 1. 広島県警察 サイバー防 犯ボランテ ィア委嘱	単	平成31年 4月1日	広島県警	広島県における小中学校のサイバー犯罪に関する啓蒙活動。ボランティア学生の募集などを行い、啓蒙に努める。 【関連授業科目：情報倫理・情報リテラシー】
2. 2019年度 JSiSE学生 研究発表会 (中国地区) 審査委員	共	令和2年 2月	一般社団法 人教育シス テム情報学 会中国支 部	学生発表会の受賞論文審査委員 【関連授業科目：卒論ゼミ】
3. HiBis AI・ IoT研究部 会「HiBiS IT 勉強会	共	平成31年 4月	HiBis 協 議会	HiBis 協議会の部会における参加と勉強会開催協力 【関連授業科目：卒論ゼミ】

2019 年度 教育研究業績

人文学部・人間生活学部 共通教育部門 西口 理恵子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Development of Electrical and Mechanical Engineering Lesson Using Refrigerator Catalogs and Mana-Pita Sheets	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生 活学部紀要 第 7 号 (4 頁)	広島女学院大学では中、高等学校での家庭科教員免許取得のための科目として家庭電気・機械を開講している。2021 年度から中学校、2022 年度からは高等学校で新しい学習指導要領が文部科学省によって改訂され、子供たちがより能動的に学ぶ授業を設計する力が教員には求められることになる。本研究では、アクティブラーニングの授業形式としてグループ活動による冷蔵庫のカタログとマナピタシートを使用した授業展開を行い、学生の反応や感想をもとに、これらの教材による授業効果を検証した。(pp. 85～88) 【関連授業科目：家庭電気・機械】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人文学部・人間生活学部 共通教育部門 澤村 雅史				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. "ἀνομία in Matthew: an exegetical analysis of its Meaning", in William Loader, Boris Repschinski, Eric Wong (eds.), <i>Matthew, Paul, and Others: Asian Perspectives on New Testament Themes</i>	共	2019 年 10 月	innsbruck university press (Open Access-Publikation) (289 頁)	<p>マタイ福音書の重要鍵語のひとつ ἀνομία について 積義的に分析し、その指示内容を同定するとともに、マタイ福音書全体の執筆意図を探る手掛かりとした。2018 年 10 月の学会発表 (SNTS APLC in Taiwan) を質疑応答を踏まえて改稿し、同学会の Proceedings に収録された (pp. 76~87)。</p> <p>【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、Religions in the World】</p>
(学術論文等) なし				
(教育実践記録等) なし				
(発表・講演) 1. 「核とキリスト教は共存できるか？」	単	2019 年 5 月	日本キリスト教団広島南部教会創立 90 周年記念講演会〔招待あり〕	<p>核兵器や原子力発電に対しキリスト教が発信してきた言説を批判的に検討しつつ、広島におけるキリスト教会として広島南部教会の歴史と歩みが持つ重要性について論じた。</p> <p>【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、キリスト教と社会、ヒロシマと平和】</p>
2. 「マタイ福音書における『異邦人』」	単	2019 年 8 月	関東神学ゼミナール 2019 年度 fad 夏期合宿〔招待あり〕	<p>マタイ福音書における「異邦人」への否定的姿勢と肯定的姿勢を救済史的区分によって説明してきた従来の定説を疑い、新たな視点から説明を試みた。</p> <p>【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、Religions in the World】</p>
3. 「マタイ福音書における『不法』と危機意識」	単	2019 年 8 月	同上	<p>マタイ福音書の重要鍵語のひとつ ἀνομία について 積義的に分析し、その指示内容を同定するとともに、マタイ福音書全体の執筆意図について論じた。</p> <p>【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、Religions in the World】</p>

4. 「SDG16『平和と公正をすべての人に』について」	単	2019 年 9 月	武田中学校 SDGs 発表会 調べ学習「大学の先生に聞いてみよう」 (出張授業)〔招待あり〕	「SDG16『平和と公正をすべての人に』について」解説を行った。 【関連授業科目：ヒロシマと平和】
5. 宗教間トークセッション	共	2020 年 1 月	広島仏教学院 宗教概論公開講座 〔招待あり〕	浄土真宗との共通点、相違点、対話の接点について、講義と対談形式にて。 【関連授業科目：地域と宗教、キリスト教学入門 I・II、Religions and the World】

2019 年度 教育研究業績

人文学部・人間生活学部 共通教育部門 近藤 友子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 「障害者サービスの基本と課題—福知山市立図書館を参考に考える—」	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生 活学部紀要 第 7 号 (4 頁)	公共図書館における障害者サービスについて考察を行った。また具体的な事例として福知山市立図書館において提供されている <u>対面読書サービス</u> に焦点をおき、 <u>対面読書の活動</u> を支えている協力者の方々へアンケート調査を行った。この調査により福知山市立図書館で活動している <u>対面読書サービス</u> についての意義や役割、課題などの考察を深めるとともに、対面読書協力者の活動に対する意識や期待、課題を捉えて今後の障害者サービスのあり方を探るものとした。(pp. 23～26) 【関連授業科目：図書館概論、図書館サービス概論、図書館サービス特論、情報サービス論、読書と豊かな人間性】
(教育実践記録等) 1. (ポスターセッション参加) 第 21 回図書館総合展 ポスターセッション	共	令和 元年 11 月	第 21 回 図書館総 合展	ポスター題目：「闘病記文庫を考える—ニーズと図書館をつなぐ理想とは—」(A0 サイズ 1 枚) 「図書館サービスの大切なことって何だろう～闘病記文庫から医療・健康情報を考えてみよう～」 図書館利用に障害や困難を抱える人たちへの支援について闘病記文庫を中心として考察し、どのような支援ができるのかを考えるためのポスター掲示。 (2019 年 11 月 12 日 (火)～11 月 14 日 (木)) 於：パシフィコ横浜、ポスター掲示番号：87) [全体的なポスター構成、文章校正・執筆担当。] 共同制作：近藤友子、石田泰子、河野有貴子 【関連授業科目：図書館概論、図書館サービス概論、図書館サービス特論、情報サービス論、学習指導と学校図書館】

<p>(その他)</p> <p>1. (口頭発表) 私立大学図書館協会2019年度西部地区部会研究会「図書館における障がい者支援と障がい者サービスとは」</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 6月</p>		<p>図書館における障がい者への支援についての現状や、公共図書館を中心とした障がい者サービスについて発表を行った。<u>障がい者への支援の理解のために、例えば視覚障害、聴覚障害、学習障害などについての理解とともに「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(略：障害者差別解消法)について、合理的配慮を中心とした内容についての発表を行った。</u> (令和元年 6月21日)(於：大阪経済大学) 【関連授業科目：図書館概論、図書館サービス概論、図書館サービス特論、情報サービス論、学習指導と学校図書館】</p>
<p>2. ボランティア 講習会講師</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 9月</p>		<p>対面読書ボランティア講習会 於：福知山市立図書館中央館 日時：令和元年9月12日 13：45～15：45</p>
<p>3. ボランティア 講習会講師</p>	<p>単</p>	<p>令和2年 2月</p>		<p>対面読書ボランティア講習会 於：福知山市立図書館中央館 日時：令和2年2月28日 13：45～15：45</p>

2019 年度 教育研究業績

人文学部・人間生活学部 共通教育部門 前田 美和子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 奪われる子どもたち—貧困から考える子どもの権利の話	共	令和2年 2月	教文館 (230頁)	「第6章 人はパンだけで生きるものではない—貧困の子どもとスピリチュアルペイン」担当。 (pp. 148~170) 本書は、子どもの貧困について現代日本社会の実態や、子どもの人権についてキリスト教の視点をもって考察したものがまとめられたものである。その中で、これまで緩和ケア分野を中心に研究が進められてきたスピリチュアルペインに注目し、貧困の子どもたちにとって、制度面の整備のみならず、安心できる居場所作りや関係づくり等、スピリチュアルケアの必要性について提起した。(pp. 148~170) 著者：小見のぞみ、宮本みち子、西島央、坪井節子、前田美和子、他3名
(学術論文等) 1. 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について(第4報)	共	令和2年 3月	広島女学院 大学人間生活学部紀要 第7号 (51~59頁)	2018年前期および後期の「キリスト教の時間」チャペルカードのコメントの入力および分析を行った。対象者の多くは本学改組元年入学生であったが、学生たちはこれまで同様に社会の中にある様々な課題や問題に自らも目を向け、今まさに活動に取り組んでいる人々について知ることの大切さや自分自身の選択、自らのありかたについて考え、思いを深くしている様子がうかがえた。また、テキストマイニングという研究手法の妥当性について今後検討する必要性や、学生の意識していないレベルでの影響を検討する必要性など、新たな課題も見出すことが出来た。 著者：前田美和子、加藤美帆、檜崎久美子、田中沙織
(教育実践記録等) 特記事項なし				

<p>(その他)</p> <p>1. 子どもの貧困とスピリチュアルペイン—キリスト教学校の可能性について—</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 6月</p>	<p>日本キリスト教教育学会第31回学会大会</p>	<p>スピリチュアルペインについて、わが国において明確な定義は定まっていない。しかし近年の研究から、その人の存在の根幹にかかわる部分に深いダメージを受けた際に感じる痛みであり、その人にとって核となる部分における何かしらの「つながり」あるいは「関係性」の断絶による痛みといえる。ところで、これまでの研究からキリスト教の祈りや礼拝は、キリスト教主義学校で学ぶ学生たちに新たな社会性の獲得や、自らの霊性の発達に影響を及ぼしている可能性が示唆されてきた（前田、2014年、前田ら、2018年）。そこで、スピリチュアルペインを感じている学生たちに対して、キリスト教主義教育・学校がスピリチュアルケアの場となり得る可能性について提起した。</p>
<p>2. 子どものスピリチュアルペインの把握について</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 12月</p>	<p>2019年上 廣倫理財団 女性研究会 発表</p>	<p>これまで、緩和ケア分野や被災地等、命の終わりに直面した際に見られるスピリチュアルペインについて、病症のない子どもを対象として研究はあまり行われてきていない。そこで、文献研究をもって、病症のない子どももスピリチュアルペインを持ちうる可能性について示唆した。また、今後実見に基づく調査・分析の必要性について説いた。</p>
<p>3. スピリチュアルペインとキリスト教</p>	<p>単</p>	<p>令和2年 2月</p>	<p>キリスト教教育の理論的基礎研究部会 第6回課題研究会</p>	<p>列王記5章に記されているナアマン将軍の物語、マルコによる福音書5章25b節～34節に記されている長血の女、またルカによる福音書19章1節～10節にある徴税人ザアカイの物語は、いずれも社会的な関係性を断絶された者の物語である。このことを、山崎の示した「スピリチュアルペインを感じるメカニズム」（2017）と照らし合わせ、いずれもスピリチュアルペインが生じてもおかしくない状況と言えることを示した。また、それらの物語から、キリスト教やキリスト教主義学校が為しうる具体的なスピリチュアルケアについて提起した。</p>

2019 年度 教育研究業績

人文学部・人間生活学部 共通教育部門 吉田 順子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項無し				
(学術論文等) 特記事項無し				
(教育実践記録等) 1. 実践報告 新 設科目『女性とラ イフキャリア』へ の取り組みと課 題	—	令和元年 8 月	日本ビジネ ス実務学会 中国四国ブ ロック研究 会	<p>『女性とライフキャリア』においてグループワークを活性化するため、事前に web を用いたアンケートを導入し、ワーク時には上級生の学生ファシリテーターを配置する試みを実施した。アンケートにおいては少数派の多様な回答が得られたことが評価できたが、これらについてグループディスカッションを行ったところ、議論が深まらずむしろ多数派の意見に収束する傾向がうかがえた。次年度へ向けての課題として、アンケート結果の提示の仕方および、学生ファシリテーターの育成が課題である。</p> <p style="text-align: right;">【関連授業科目：女性とライフキャリア】</p>
(その他) 特記事項無し				

2019 年度 教育研究業績

人文学部・人間生活学部 共通教育部門 Daniel G.C. Hougham				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Investigating the Effect of MReader Quizzes on Japanese University Students' Attitudes Toward Reading in English (査読有)	単	令和元年 12月	Extensive Reading 5th World Congress Proceeding s. ERWC5: Taiwan. (forthcoming)	This study investigated student attitudes towards extensive reading (ER) with MReader, an online quiz program designed to motivate, verify, and track students' ER achievements. The participants were 61 first- and second-year Japanese university students enrolled in a basic compulsory English course where the Start with Simple Stories (SSS) and Sustained Silent Reading (SSR) approaches were implemented. The participants were placed into two groups: a treatment (MReader) group and a control (non-MReader) group. A multi-item Likert questionnaire was used as a pretest-posttest to measure various components of L2 reading attitude. Although only minor differences between the groups in their mean differences were found, the results of this study suggest that the SSS/SSR approach to ER together with the use of MReader quizzes may lead to improved attitudes towards reading, increased intellectual value and decreased anxiety in particular.
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 〈学会発表〉 1. Investigating Students' Attitudes Towards ER and MReader: How Effective is the Development of a New ER Component at a Private Japanese University?	単	令和元年 8月	Extensive Reading 5th World Congress, Taichung, Taiwan.	This presentation reported on the establishment of an ER component, using the MReader learning management system, a Reader Challenge contest and a learner community in a private Japanese university. Using qualitative pre- and post-trial survey data, the presentation focused on how students' attitudes towards ER were measured and changed as a result of their ER experience.

<p>2. Materials Development and Use for an MReader-supported ER Component at a Japanese University</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 8月</p>	<p>JACET English Education and Summer Seminar, Tokyo, Japan.</p>	<p>This poster presentation shared how bilingual materials, including two types of reading journals, a graded reader rating sheet, and a “Reader Challenge” contest sheet, were developed and used for an MReader-supported extensive reading component at a private Japanese university. Post-use evaluation survey data demonstrated how useful and successful the materials were in helping students achieve their reading goals and develop as autonomous learners.</p>
<p>〈講演等〉 1. カナダの文化と生活 [Canadian Life and Culture]</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 9月</p>	<p>Waseda Academy, Hiroshima, Waseda Kominkan, Japan</p>	<p>In this lecture (delivered mostly in Japanese), I talked about my home country, what Canadian culture is, and how it is different from Japanese culture. I introduced participants to the attractiveness of Canada, talking about interesting topics including food, customs, popular culture, etc. with pictures and a quiz.</p>
<p>〈社会活動等〉</p>	<p>単</p>			<p>1. Editor for Learning Learning, the newsletter of the JALT Learner Development Special Interest Group 2. Reviewer for The Extensive Reading 5th World Congress Proceedings.</p>
<p>〈その他〉 1. What Should Every EFL Teacher Know? [Review of the book What Should Every EFL Teacher Know?, by Paul Nation] (査読有)</p>	<p>共</p>	<p>令和元年 12月</p>	<p>Journal of Asia TEFL, 16(4), 1454-1455 (2頁)</p>	<p>This is a review of Professor Paul Nation’s book What Should Every EFL Teacher Know?. The review summarizes Professor Nation’s main idea of “the four strands” as well as what he considers to be the most useful changes a teacher can make (e.g. adding a substantial extensive reading program) when applying the four strands to a course. The review also describes the aims and structure of the book in some detail, emphasizing how very practical and highly recommended the book is.</p>
<p>2. Minimum Essentials 1&2</p>			<p>広島女学院大学 教務課 基礎英語 教科書</p>	<p>Textbook for Hiroshima Jogakuin University Kiso Eigo classes (Editors) Timothy Wilson, Isobe Yumiko (Contributors) Jamie Szuba, Paul Spicer, Timothy Wilson, Daniel Hougham</p>

2019 年度 教育研究業績

人文学部 国際英語学科 波多野 五三				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. スコットランドの義勇士 William Wallace にまつわる私の パワースポット	単	平成 31 年 4 月	『広島日英 協会々報』 No. 118 (5 頁)	13 世紀末のスコットランドにおいて、イングランドの圧政に対して反旗を翻したウィリアム・ウォレスの生涯を概説するとともに、イングランドとの古戦場について写真を交えて詳述している。さらに、囚われの身になったウォレスが処刑されたロンドン市内の旧跡の歴史的な価値にも言及している。 pp. 4-8

2019 年度 教育研究業績

人文学部 国際英語学科 John Herbert				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Life with two languages – one soul or two?	単	2019 年 6 月	<i>AJALT</i> . Association for Japanese Language Teaching, vol. (42), pp. 34-37. (4 頁)	An article that looks at a bilingual English/Japanese lifestyle from the perspectives of both learner and teacher. The article examines the effects that each language has on the other in the life of a user of both languages. The article examines language acquisition difficulties, successes, dilemmas and also the concept of language authenticity. 【関連授業科目：Language Diversity & Society、English in the World、世界の英語、アカデミック・リサーチ】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. English in the 21 st Century: The Wonder of Diversity. [21 Seiki no Eigo: Tayousei no Omoshirosai] (発表)	単	2019 年 10 月	Hiroshima Jogakuin University Koukai Seminar, Hiroshima Prefecture, Japan.	A public lecture that examined the diversity of English in the 21 st century. The presentation set out how the English language has evolved, how it has affected other languages, and how different varieties of English are held in varying levels of esteem by different people in society.

2019 年度 教育研究業績

人文学部 国際英語学科 Robert Dormer				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. The Historiographic al Turn and Attitudes to History in Japanese International Relations	単	令和2年 3月	The Asian Conference on the Social Sciences 2019 Official Conference Proceeding s IAFOR; The Internatio nal Academic Forum (19頁)	This research, building upon the recent work in historiography in International Relations, seeks to address the specific question of attitudes to historiography among IR teaching staff in Japanese universities.
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人文学部 国際英語学科 磯部 祐実子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 「大学生の英語運用能力の変化と動機づけ、学業的自己概念、学習ストラテジー、学習時間との関連」	共	令和2年 3月	広島女学院大学大学院言語文化論叢 (16頁)	広島女学院大学一年次に在籍する学生 366 名を対象に、学修意欲、学修方法、学修時間に関する統計調査を行い、実態を明らかにするとともに、 <u>TOEIC のスコアとの相関関係を考察する</u> 。さらに、前年に実施し、考察した同テーマの研究結果との比較考察を行う。(pp. 1~16) 著者：関谷弘毅、磯部祐実子 【関連授業科目：キャリア・スタディ・プログラム I, II, III】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 「味わう英語-英文学の原書を読む楽しみ-」	単	令和元年 10月	広島女学院大学 2019 年度 (第 37 回) 公開セミナー	広島女学院大学国際英語学科が担当した、リレー方式の公開セミナー「英語再発見一言語と文化のおもしろさをとおして」(全四回)の第三回を担当し、 <u>イギリス文学の代表的な戯曲・詩・小説を取り上げ、翻訳には現れてこない原書ならではの読み方やおもしろさを、イギリスの文化的・歴史的背景を踏まえながら講義を行った。</u> 【関連授業科目：イギリス文学史、イギリス文化概説、国際英語研究 I / イギリス演劇と社会、英米詩の世界、19 世紀のイギリス文学】

2019 年度 教育研究業績

人文学部 国際英語学科 関谷 弘毅				
著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 1. TBL を文系 座学科目にチ ーム基盤型学 習で理解を促進	単	令和元年 3月	大学教育出 版 (130頁)	本書は、チーム基盤型学習 (Team-Based Learning: 以下 TBL) をアクティブ・ラーニングの一つの形態と位置づけ、それを取り入れて大学のいわゆる座学科目の授業を実施し、概念理解と学習意欲に与える影響を検討することを目的とした。大学教員である筆者が、英語教育学の学会誌に掲載された論文 5 編をもとに内容をまとめ直し、授業内で生じる問題の克服を目指し、改善と効果検証を繰り返してきたアクション・リサーチの過程を詳説している。
(学術論文等) 1. Learners' Beliefs and Learning Strategies Regarding Chinese as a Second Language and English as a Foreign Language at Shanghai Japanese High School. (査読付)	単	令和元年6 月	<i>Asian English Studies</i> 第 23 号 (22 頁)	本研究は、上海日本人学校高等部の生徒が中国語と英語に対して持つ学習ビリーフ、及び中国語と英語に対して使用する学習方略を比較し、英語に対する学習方略の使用に影響を与える要因を検討した。2 つの重回帰分析の結果、英語の学習方略の使用は、英語に対する「コミュニケーション志向」が直接影響を与えるほか、中国語に対する「コミュニケーション志向」が中国語の学習方略を媒介して影響を与えることが明らかになった。(pp. 52-73)
2. チーム基盤型学習 (TBL) における役割付与が英語学の専門知識習得に与える影響 (査読付)	単	令和 2 年 3 月	『中国地区 英語教育学 会誌』 第 50 号 (13 頁)	本研究は、大学の英語学の科目において、TBL 型授業のグループワークの学習機能を向上させることを目的として、メンバーに役割を付与してその効果を検討した。テスト得点の分析の結果、TBL に取り組むことによって知識獲得、概念理解、具体例／詳細説明の記述力が促されることが示された。また、計量テキスト分析から、TBL 群と TBL+役割群ではグループワークに関して異なる体験および意味づけをしていることが示された。(pp. 65-75)
3. 大学生の英語運用能力の変化と動機づけ、学業的自己概念、学習	共	令和 2 年 3 月	『広島女学 院大学大学 院言語文化 論叢』, 23.	本研究は、広島女学院大学における 2018 年度の全学英語教育の実態調査を行ったうえ、学習量、動機づけの強さ、学習ストラテジーの使用、学業的自己概念に関して、どのような特徴を持つ学生が英語力

<p>ストラテジー, 学習時間との関連</p> <p>4. アメリカへの2週間の研修プログラムによる大学生の変容ー学習ストラテジー, 動機づけ, 学習観に着目してー</p>	<p>共</p>	<p>令和2年3月</p>	<p>(16頁)</p> <p>『広島女学院大学人文学部紀要』創刊号 (19頁)</p>	<p>を伸ばしているかということ習熟度高低別に検討した。重回帰分析の結果、習熟度低群においては学習ストラテジーのうち「社会」、動機づけ、及び学業的自己概念が英語力の変化を規定する要因となることが示された。一方で、習熟度高群では、学習ストラテジーのうち「社会」が英語力の変化を規定する要因となることが示された。(pp. 1-16)</p> <p>著者：関谷弘毅，磯部祐実子</p> <p>本研究は、私立女子大学の英語系学科で学ぶ1年生を対象に、アメリカ合衆国カリフォルニア州の大学への約2週間の研修プログラムに参加することによる、英語学習に対する学習ストラテジー、動機づけ、学習観の変容を検討した。その結果、記憶・認知ストラテジーと情意ストラテジーに効果がある可能性が示唆された。また、動機づけの変化量を上位群と下位群とに分けると、上位群では経験から今後の語学学習に対する学びや教訓を得ている様子が見えかけた。</p> <p>著者：関谷弘毅，戸田慧</p>
<p>(教育実践記録等) 特記事項なし</p>				
<p>(その他) <学会発表></p> <p>1. 習熟度によるクラス分けのない大教室における文法の授業実践ー「なるほど!」と思った表現を自由に選びテスト問題にする試みー</p> <p>2. チーム基盤型学習 (Team-Based Learning) における役割付与が英語学の専門知識習得に与える影響ー大学でのアクティブ・ラーニング実践ー</p>	<p>ー</p> <p>ー</p>	<p>令和元年6月</p> <p>令和元年6月</p>	<p>2019年度 JACET 中国・四国支部春季研究大会</p> <p>第50回中国地区英語教育学会研究発表会</p>	<p>本研究は、大学の英文法の授業におけるテストの工夫について報告した。映画を用いた作文、ディクテーション課題と、そこで使用される表現に関連する基本的な文法解説を軸とした授業で、学生には題材に現れる「なるほど」と思った表現を自由に選んで「表現シート」にストックするように求め、それらの表現の再生を問題とする小テストを複数回実施した。毎回の授業後に実施した「振り返りシート」のコメントを分析した結果、学期序盤に比べ、終盤は内容面と形式面をより統合的に結びつける傾向が見られた。</p> <p>本研究は、大学の英語学の科目において、TBL型授業のグループワークの学習機能を向上させることを目的として、メンバーに役割を付与してその効果を検討した。テスト得点の分析の結果、TBLに取り組むことによって知識獲得、概念理解、具体例／詳細説明の記述力が促されることが示された。また、計量テキスト分析から、TBL群とTBL+役割群ではグループワークに関して異なる体験および意味づけをしていることが示された。</p>

<p>3. Relationship Between Learners' Beliefs and Learning Strategies Regarding Chinese as a Second Language and English as a Foreign Language: A Case at Shanghai Japanese High School</p>	<p>—</p>	<p>令和元年 8 月</p>	<p>The 7th International Conference on Foreign Language Education and Technology</p>	<p>This study attempted to compare Shanghai Japanese High School students' beliefs about Chinese as a second language (CSL) learning with their beliefs about English as a foreign language (EFL) learning, as well as to compare their use of learning strategies for both languages, and to identify the factors determining the learning strategies used in foreign language learning. The results suggest that, although high school students following the Japanese curriculum in a non-English speaking country shows stronger beliefs and more frequent use of strategies for EFL learning than for CSL learning, living experience in the country and formation of beliefs based on such experience would work as a transfer to the use of strategies for EFL learning.</p>
<p>4. The "Big-Fish-Little-Pond Effect" in EFL learning: Do class-average English proficiency and English proficiency ranking in class have effects on academic self-concept and learning motivation?</p>	<p>—</p>	<p>令和元年 8 月</p>	<p>JACET The 57th International Convention</p>	<p>This study examined the "Big-Fish-Little-Pond Effect" (BFLPE, the effect of school-average ability on academic self-concept) in English as a foreign language (EFL) learning settings at a Japanese university. More specifically, the effects of a class's proficiency in English and the student's relative position in the class on academic self-concept, learning motivation, and study time were evaluated at the beginning and end of a semester. The results showed that non-English major students tended to have a higher academic self-concept if they belonged to a more advanced class. The results also suggested that there was a BFLPE on learning motivation among English major students.</p>
<p><競争的資金獲得> 1. 第二言語学習環境が他の外国語学習に与える影響メカニズムの解明と介入法の開発</p>	<p>単</p>	<p>平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月</p>	<p>学術振興会</p>	<p>本研究はこれまでに、上海日本人学校の高校生が中国語（第二言語）及び英語（外国語）に対して持つ学習ビリーフ、学習ストラテジーの変化を量的、質的な観点から縦断的に調査した。その結果、第二言語環境で中国語を使用する経験よりも、学校教室内という外国語環境で英語を使用・学習する経験の方が、学習者のビリーフやストラテジーの形成に影響が大きいことが示された。また、第二言語環境での中国語使用によって形成された学習ビリーフが、学校教室内で英語を使用・学習する際の学習ストラテジーに転移する可能性が示唆された。 科研費 若手研究 (B) 17K18288 研究代表者</p>

<p>2. チーム基盤型学習 (Team-Based Learning) における役割付与が英語学の専門知識習得に与える影響—大学でのアクティブ・ラーニング実践—</p>	<p>単</p>	<p>平成 30 年 9 月～令和元年 6 月</p>	<p>中国地区英語教育学会</p>	<p>本研究は、チーム基盤型学習 (TBL) においてグループメンバーに役割を付与して大学の英語学の授業を実施し、専門知識習得に与える影響を、2017 年度の講義形式、2018 年度の役割付与のない TBL 形式の授業と比較検討した。その結果、TBL を取り入れた授業は講義形式よりも知識、理解の向上に、役割を付与すると表現の向上に好影響を与えることが示された。 Grant-in-aid for CASELE Researchers (CASELERS 研究費) 2018-19 研究代表者</p>
<p>3. 英語学習における「井の中の蛙効果」の縦断的研究—クラスの習熟度とクラス内の位置が動機づけに与える影響—</p>	<p>単</p>	<p>平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月</p>	<p>広島女学院大学</p>	<p>大学における全学英語の習熟度別クラス編成において、レベルの高いクラスに所属することによって、動機づけが低くなってしまおうという、「井の中の蛙効果」が見出されている。本研究は、「井の中の蛙効果」の存在を再確認したうえで、どのような心的プロセスを経てそのような効果が生まれるのかを検討する。具体的には、大学 1 年生を対象に入学直後、前期末、学年末の 3 時点で質問紙調査を実施して縦断的に検討するとともに インタビュー調査を行い学生の語りから「井の中の蛙効果」が生じるプロセスを分析する。 2019 年度広島女学院大学学長裁量経費研究活動助成 研究代表者</p>
<p>4. 対面式と非対面式英語スピーキング試験が学習者に与える波及効果—よりよい AI 開発への提案に向けて—</p>	<p>共</p>	<p>令和元年 11 月～令和 2 年 10 月</p>	<p>株式会社アルク</p>	<p>本研究は、英語スピーキング試験の形式の与える波及効果を検討することを目的とする。具体的には、(a) 同一の全体的評価基準に基づく対面式試験と非対面式試験との間のスコアの一致度を確認した上で、(b) 2 つの試験における発話の、流暢さ、正確さ、複雑さといった形式面、話題、語彙といった内容面での相違点を検討し、(c) 受験者の不安、動機づけ、学習ビリーフなどの情意面や学習ストラテジーの使用に与える影響の相違を検討する。 研究代表者：関谷弘毅 共同研究者：光田怜太郎</p>
<p><講演・講師> 1. 英語を使って海外に行ってみよう～アジア・アメリカへの旅～</p>	<p>—</p>	<p>令和元年 7 月</p>	<p>早稲田女性会と早稲田公民館 (広島市)</p>	<p>本講座では講師のアジアやアメリカでの実生活の体験を紹介し、外国へ出かけるための心構えと外国語の初心者向けレッスンをを行った。具体的には、講師のアジアやアメリカでの滞在時の経験を紹介するとともに、アジアへの旅行をテーマに作成された DVD を使用して、会話のディクテーションや、ロールプレイなどの活動を行った。</p>
<p>2. 英語の学び方再発見—「へえ、そう言うんだ」小さな感動を大切</p>	<p>—</p>	<p>令和元年 10 月</p>	<p>広島女学院大学</p>	<p>本講義では、第二言語習得研究の理論を学んだうえで、言語活動の疑似体験を通して外国語を学ぶ方法の理解を深め、実践に生かすことを目指した。具体的には、第 1 に、クラシエンが提唱した「インプッ</p>

<p>にしてー</p> <p>3. 英語科教育法 A (R1 認定講習)</p>	<p>ー</p>	<p>令和元年 12月</p>	<p>愛媛大学</p>	<p>ト仮説」を中心に、第二言語習得研究において得られた知見から、効果的とされる学習方法の考え方を紹介した。第2に、実際に身近な題材を用い個人に合わせ無理なく英語を学ぶ体験をし、語学学習を継続していくために必要な知識や方法論を知る活動を行った。</p> <p>本講習では、主に中学校教諭二種免許状（英語）の取得を目指す現職の小学校教員を対象とし、第二言語習得理論と、基本的な中学校英語の授業の設計の習得を目指した。第二言語習得理論に関しては、臨界期仮説、インプット仮説、自動化理論などを扱った。授業の設計に関しては、中学校の検定教科書を使用し、基本的な授業の流れに沿って、指導法を紹介したうえで、模擬授業形式の実践的な活動を行った。</p>
--	----------	---------------------	-------------	--

2019 年度 教育研究業績

人文学部 国際英語学科 戸田 慧				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 兵士は故郷に 帰り、人魚の夢を 見る—「夏の仲 間」における「理 想」の女——(査 読付き)	単	令和元年 6月	『ヘミング ウェイ研 究』 第20 巻(日本ヘ ミングウェ イ協会) (3-12頁)	ヘミングウェイの初期の短編「夏の仲間」における人魚と娼婦の関連性について論じ、従来の研究では失敗作、不完全な習作と見なされてきた本作が、その後の大作に表現される女性像の構築につながる重要な要素をそなえていることを論じた。また、これまでは気楽な若者の夏の思い出と思われてきた内容も、戦争によって心に傷を負ったロスト・ジェネレーションの苦悩を間接的に描く意味が込められていることも明らかにした。 【関連授業科目：アメリカ文学史】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人文学部 日本文化学科 佐藤 茂樹				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 『平家物語』 横笛と滝口入道 との贈答歌につ いて	単著	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学大学院 言語文化論 叢 第 23 号 (12 頁)	『平家物語』には、横笛・滝口の贈答歌として、「剃るまでは恨みしものを梓弓誠の道に入るぞうれしき」「剃るとても何か恨みむ梓弓引き留むべき心ならねば」がある。同じ贈答歌でありながら、延慶本と、覚一本とでは、詠作者が入れ替わっている。それぞれのテキストにおいて解釈上の破綻はない。二人ともに、出家し、恨みをもっているからである。古態性をもつ延慶本の贈答歌は贈答歌のルールに則らず、それぞれの思いを伝えることに終始していると読む。それを、文学的贈答歌に改変したのが覚一本作者の意図であったとして、二首の和歌を解釈する。(pp. 37～48)
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人文学部 日本文化学科 植西 浩一				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 「読むことに於ける対話と感性的思考—夏目漱石のテキストに学習者と共に向き合いつつ」	単	令和 2 年 3 月	『国語教育実践理論研究会研究紀要第 28 号』, (執筆 8 頁、総 114 頁)	本論文では、テキストとの対話、他者との対話、自己との対話を深めつつ、学習者が感性的思考を働かせて自らの読みを成立させる過程を <u>日本文学講読Ⅱの授業実践に即して捉える</u> 。テキストとの対話では、イメージ形成が映像に接する場合とは異なる形で行われ、それが解釈を生成させていく姿を見取った。また、他者との対話では、学習者相互の対話、指導者との対話に加え、先行研究との対話を組織することの意義を見出せた。さらに他者との対話がより深い自己との対話に結びつくことを確認できた。 (pp. 93~100) 【関連授業科目：日本文学講読Ⅱ】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 「読むことと感性的思考—夏目漱石のテキストに学習者と共に向き合いつつ—」 2. 「大学生とヒロシマに学ぶ」	単 単	令和元年 8 月 4 日 於・クロスウェーブ船橋 令和元年 8 月 24 日 於・大阪国際交流センター	国語教育実践理論研究会第 28 回研究集会 第 50 回記念授業のネタ研究集会	読むことの学習指導に於いて、感性的思考を働かせることの重要性について、夏目漱石が文学論で提示した「F+f」という数式や W. イーザーの読書理論を参照しながら発表した。また <u>実践事例には本学日本文化学科の必修科目「日本文学講読Ⅱ」を上げ、シラバスも提示して、「論理」に偏らない「感性」を重視した指導の重要性を指摘した</u> 。さらに安易な映像の利用の問題点にもふれた。 【関連授業科目：日本文学講読Ⅱ】 5年間継続して行ってきた本学の木曜チャペルでの学生たちとの朗読発表、国際教養学会主催の本川小学校見学、 <u>人文学入門での授業実践</u> 他を紹介し、若い世代と共に平和について学び、それを他者に発信していくことの大切さについて述べた。また、発表者は関西から広島に来ており在住期間も長くはない。そのような他者の目からヒロシマを語り、ヒロシマの願いを共有することの重要性についても参加者と共に考えた。 【関連授業科目：人文学入門】

3.「書く力を鍛える」	単	令和元年 10月31日 於・奈良市 立平城小学 校	奈良県国語 教育研究会 秋季研究大 会	<p>国語の時間は言葉の力を「鍛える」時間であることを確認し、その上で、書く力を鍛えるための作文指導のあり方を具体的実践に即して述べた。実践事例には、これまでの中学校での実践に加え、本学の授業「日本語文章表現法」での授業事例も上げて、具体的方途を示した。その中で、系統的な書き方の指導、評価の改善、題材の開発、ポイントを押さえた取り立て指導と日常的指導の継続等の重要性にふれた。</p> <p>【関連授業科目：日本語文章表現法】</p>
-------------	---	---------------------------------------	------------------------------	---

2019 年度 教育研究業績

人文学部 日本文化学科 渡邊 ゆかり				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 状態変化を表す「～ようになる」はどのような中国語に翻訳されるのか	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人文学部 紀要 第 1 号 (18 頁)	本研究では、中国語を母語とする日本語学習者の「動詞ようになる」の習得上の問題を扱った渡邊(2019)を受け、 <u>近代の日本文学作品に現れる、状態変化を表す「～ようになる」がどのような中国語に翻訳されやすいのか、また、それはなぜなのかについて調査、分析を行った。</u> (pp.31～48) 【関連授業科目:日本語教授法 I～III、現代日本語基礎文法】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人文学部 日本文化学科 柚木 靖史				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 「角筆文献資料から安芸・備後地方の近世方言を探る —広島県立文書館蔵の角筆文献調査(二〇一四年—二〇一六年)—」	単	令和 2 年 2 月	『広島女学院 大学 論集』第 67 号 (21 頁)	2014 年から 2016 年にかけて、広島県立文書館で角筆文献確認調査を行い、58 点の角筆文献の存在を確認することができた。本稿には、それぞれの文献の書肆の事項を掲載するとともに、発見された角筆文献から分かる、安芸、備後地方の近世の方言的事項について考察した。今回取り上げた方言的事項は、開合や四つ仮名、合拗音の直音化、母音交替、長音化、短音化などである。開合の乱れについては、近世の安芸・備後地方での乱れの実態を確認でき、さらに四つ仮名の乱れ、合拗音の直音化など、墨の文献では追いき、安芸・備後地方の近世方言の状況について明らかにした。(pp.73～93)
2. 「漢語動詞「制す」の成立—中国文献の動詞「制」字との意味の比較をとおして」	単	令和 2 年 3 月	『広島女学院大学大学院言語文化論叢』第 23 (20 頁)	漢語動詞形成漢字の受容という観点から、「制す」という漢語動詞の語幹をなす「制」という漢字漢語について、中国文献と日本文献の意味比較を行い、日本における「制す」の意味変化について考察した。考察の結果、日本文献における「制」には、意味の縮小が見られること、『源氏物語』などの和文の「制す」には、中国文献の「制」の意味に基づきながらも、和語化が見られることを明らかにした。そして、和文の「制す」は、動作主と対象者との間に明らかな立場の差があり、それを明示できるという点に「制す」の表現価値が認められることを述べた。(pp.13～32)
3. 「『源氏物語』における二字漢語動詞の特徴—漢語受容における漢語の和語化について—」	単	令和 2 年 3 月	『広島女学院大学人文学部紀要』創刊 (23 頁)	筆者は『源氏物語』の一字漢語動詞について、一連の考察を行ってきたが、その考察の対象を二字漢語動詞に広げるにあたり、『源氏物語』の二字漢語動詞の意味や特徴について考察したものである。その結果、『源氏物語』の二字漢語動詞には、「中国文献(漢籍・仏典)での意味とほぼ一致する漢語」「中国文献に比べて『源氏物語』の漢語の意味が限定的である漢語」「中国文献と『源氏物語』とで、意味が異なる漢語」が認められ、もっとも多いのは、「中国文献に比べて『源氏物語』の漢語の意味が限定的である漢語」であり、この意味の限定化が漢語受容の大きな特徴の一つであることを指摘した。(pp.1～23)

(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人文学部 日本文化学科 足立 直子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 書評・中田睦美著『芥川龍之介の文学と〈噂〉の女たち 秀しげ子を中心に』	単	令和2年 1月 11日	「図書新聞」第3430号 (1頁)	本著の内容、学術的意義について紹介し、批評を行った。

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 細田 みぎわ				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. 街をデザインする／ほおずき通りの街路灯	共	令和元年 10月	都市のインテリア／日本インテリア学会中国・四国支部「都市のインテリア」編集委員会 出版 (9頁)	2014～2015 生活デザイン・建築学科の産学連携プロジェクト「牛田商店街街路灯デザインコンペティション」の報告レポート。日本インテリア学会第31回大会(広島)の開催を記念して、日本インテリア学会中国・四国支部により「都市のインテリア」を出版した。(pp. 98～106) 著者：灰山彰好、平田圭子、日高卓三、藤本和男、藤原美樹、 <u>細田みぎわ</u> 、松尾兆郎
2. 詩人の家	単	令和2年 3月	広島女学院大学人間生活学部紀要第7号 (6頁)	宮城県石巻市で開催された「リボン・アートフェスティバル 2019」の展示会場の設計(リノベーション)。詩人吉増剛造の作品展示、および期間中のアトリエのための空間である。東日本大震災前の街の景観に配慮しつつ、前回の廃材である CLT(木質系素材)を耐震補強を兼ねて再利用し、元雑貨屋をリノベーションした。室内空間は、商店の名残を一掃し、吉増色にした。(pp. 89～94)
(その他) 1. 第10回「ひろしま建築文化賞」審査委員	—	令和元年 2月～ 令和2年 6月	主催：一般社団法人 広島県建築士事務所協会	(一社) 広島県建築士事務所協会に所属する設計事務所が設計する広島県に建つ建築を対象に3年に1回実施するコンペである。今回で3回目の審査員となる。書類審査の後、現地審査2日間を行い、最終審査の後、優秀作品を決定する。
2. 広島市大規模小売店舗立地審議会委員	—	令和元年 4月～ 令和2年 3月	主催：広島市経済観光局	広島市大規模小売店舗立地法の規程により、審議を行う。道路交通処理・廃棄物処理・騒音対策・まちづくり・マーケティング・法律の専門家により構成される。広島市経済観光局産業振興部商業振興課が進行。

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 小林 文香				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 大学生の伝統的住まいに対する理解と家庭科教育の可能性	共	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生活学部紀要 第 7 号 (5 頁)	広島と東京の大学生を対象に、大学生の伝統的住まいに対する理解を把握するために、アンケート調査を実施した。調査結果をもとに今後の住文化教育の課題を整理した。(pp. 69-74) 著者：小林文香、妹尾理子 【関連授業科目：住生活論(含住居学概論)、住居・建築計画学Ⅱ】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 日本家政学会 第 71 回大会研究 発表	共	令和元年 5 月	日本家政学 会第 71 回 大会研究発 表要旨集 p. 107	日本家政学会第 71 回大会にて「大学生の伝統的住まいに関する理解と家庭科教育の可能性」について研究発表を行った。「大学生の伝統的住まいに対する理解と家庭科教育の可能性」女学院大学人間生活学部紀要第 7 号はこの発表内容に加筆したものである。 発表者：小林文香、妹尾理子
2. 日本建築学会 大会 学術講演 (北陸)	共	令和元年 9 月	日本建築学 会大会学術 講演梗概集 (北陸)、 pp. 1157- 1158	「小学校存続を契機とした山村留学制度による地域生活維持の可能性 その 1 鹿児島県屋久島町の取り組み事例」について発表を行った。 発表者：下倉玲子、福田由美子、小林文香、他 2 名
3. 日本建築学会 大会 学術講演 (北陸)	共	令和元年 9 月	日本建築学 会大会学術 講演梗概集 (北陸)、 pp. 1159- 1160	「小学校存続を契機とした山村留学制度による地域生活維持の可能性 その 2 三重県いなべ市立田地区の取り組み事例」について発表を行った。 発表者：福田由美子、下倉玲子、小林文香、他 2 名
2. 産学連携プロ ジェクト「まちの コミュニティハ ウスプロジェクト		令和元年 4 月～令和 2 年 3 月		前年度に引き続き、トータテ都市開発、設計事務所ブルースタジオとともに取り組んだ。2019 年度はトータテ都市開発と担当教員で実施採用案について打合せを行い、その結果をふまえて、学生と企業

ト」				<p>が意見交換する場を設けた。打合せの経過はトータテ都市開発のウェブサイト「産学連携プロジェクト」 としてレポートが掲載されている。 担当教員：<u>小林文香</u>、細田みぎわ</p>
----	--	--	--	--

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 真木 利江				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 丹下健三による慰霊と平和記念のランドスケープデザイン (査読付)	単	令和 2 年 3 月	日本建築学会計画系論文集第 85 巻、第 769 号、pp. 715-723 (9 頁)	丹下健三らによる広島平和記念公園、大東亜建設記念営造計画、戦没学徒を記念する広場のランドスケープデザインについて比較し、軸と台形状広場、記念性の表現、植栽と植生という 3 つの観点から考察を加えた。 【関連授業科目：建築意匠論 I、生活・建築セミナー I d・II d、卒業研究セミナー I d・II d】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) <招待講演> 1. Factory for promoting peace: Kenzo Tange and Hiroshima Peace Memorial Park	単	令和 元年 10 月 6 日	Kyoto University of Art and Design, 2019. 10. 6	京都造形大学で開催された International Symposium, The Japanese Garden Intensive Seminar Plus in Kyoto, 'Japanese Spirit and Space': in Times of War and Peace に講演者として参加した。 【建築意匠論 I、生活・建築セミナー I d・II d 卒業研究セミナー I d・II d】
<学会発表> 丹下健三による大東亜建設記念営造計画のランドスケープデザイン	単	令和 元年 9 月 6 日	日本建築学会退会学術講演梗概集 (北陸)、pp731-732	1942年丹下健三による大東亜建設記念営造計画のランドスケープデザインの特徴を敷地選定、アプローチ、神域構成、樹木表現の 4 つの観点から明らかにした。 【建築意匠論 I】

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 三木 幹子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 女子大学生の恋愛と結婚に対する意識調査(第4報) —理想の男性に関する意識とジェンダー意識との関係—	単	令和2年2月	広島女学院大学論集第67集(電子版第7号) (20頁)	<p>女子大生を対象に、理想の男性に関する意識調査、およびジェンダー意識調査に関する官能評価を行い、因子分析により両意識の関係を検討した結果、以下のことが明らかとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー意識が高い女性は、おしゃれな男性や女性に尽くしてくれる男性を好むが、経済観念が強すぎる男性を許容しない。 ・化粧や身だしなみに気を使い、男性に頼りたいと思っている女性は、紳士的で優しい男性や、経済力のある男性を好むが、お互いに束縛する関係を許容しない。 ・魅力的な女性に見せるための服装や仕草をする女性は、出世意欲と決断力のある男性、女性に優しい男性を理想としており、またお互いに束縛することを許容している。 ・男性への対抗意識が強い女性は、自分より実力が下の気が弱い男性を理想としている。反対に男性に対抗意識を持たない女性は、互いに束縛しあう関係＝婚姻関係を望んでいる。 <p>(pp. 13~32) 【関連授業科目：被服心理学、女性とライフスタイル】</p>
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 小野 育雄				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 学会委員： 日本建築学会 中国支部委員会 (歴史・意匠委 員会) 委員 2. 高大連携公開 講座	共 共	令和元年度 令和元年 8月25日	日本建築学 会中国支部 広島女学院 大学	日本建築学会中国支部に設けられている研究委員会(「構造」・「材料施工」・「環境工学」・「都市計画」・「建築計画」・「農村計画」・「歴史・意匠」の7委員会)内の歴史・意匠委員として平成23年度に選出され、以後継続しており、本年度も同委員。 一般社団法人 教育ネットワーク中国主催 高大連携事業としての公開講座「楽しく学べる生活デザイン学—ファッション・インテリア・地域デザイナー—」において「生活空間デザインを名作住宅に学びましょう」と題する講義を実施する。

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 田頭 紀和				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Karyomorphological studies of six species of <i>Lachenalia</i> (Asparagaceae)	共	令和2年 2月	広島市植物 公園紀要 第34号 (8頁)	<p>アフリカ南部に分布するキジカクシ科ラケナリア属植物の野生種6種について、染色体の形態分析を行った。その結果、染色体数 $2n=14, 18, 28$ が観察され、染色体の形態比較の結果、$2n=18$ の <i>L. attenuata</i> と <i>L. youngii</i> ではこれまでの報告と異なる染色体数が確認された。このことから、ラケナリア属において染色体変化を伴う多様化が進行していることが推測された。(共同で研究、考察を行ったため、分担を明確にページ分けすることは困難) (pp.1~8)</p> <p>著者：浜谷修一 田頭紀和</p> <p>【関連授業科目：自然と環境】</p>
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 熊田 亜矢子				
著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Current Status and Issues of Medical X-ray Protective Clothing (Posters)	共	令和元年 9 月	快適性とスマートテキスタイル交際シンポジウム 奈良春日野国際フォーラム (1 頁)	X-ray protective clothing is extremely important in preventing exposure to X-rays and maintaining the health of both patients and healthcare workers. However, currently, there is little research on developing comfortable medical X-ray protective clothing. This study aims at improving the wearability of medical X-ray protective clothing. For the coat-type clothing, high clothing pressure was observed near the side neck point, while for the apron-type, high clothing pressure was also observed on the center of the shoulder and at the shoulder point. <u>The clothing pressure was found to be more dispersed for the apron-type than for the coat-type clothing.</u> Deflections were more apparent for the half coat-type than for the apron-type. <u>Ayako Kumada, Harumi Morooka, Nobumasa Kawahara</u> 【関連授業科目：被服材料学, 被服管理学】
2. X 線防護服の現状と課題	共	令和元年 6 月	2019 年年次大会 日本繊維製品消費科学会 奈良女子大学 (1 頁)	医療用 X 線防護衣の着用性能の向上を目指した設計提案を最終目標として、本研究では既存製品の調査と予備的実験から具体的な課題を見出すことを目的とした。本研究においては、 <u>医療用 X 線防護衣が重いことによる肩への負荷や、防護衣が変形しないこと及び平面構造であるために人体に沿わないことによる問題点等が多々ある</u> ことが具体的にとなった。今後は、さらに温熱面からの課題も具体的にしていきたい。(P. 42) 〔共同研究につき抽出不可〕 著者：熊田亜矢子, 諸岡晴美, 河原伸雅 【関連授業科目：被服材料学, 被服管理学】

3. アパレル分野における色彩調和の検討 (3) トップスとボトムスのカラーコーディネート	共	令和元年 5月	第71会日本家政学会 四国大学 (1頁)	<p>本報では、トップスとボトムスの色調和について視覚評価を行い、色票との評価の差を検討した。その結果、調和領域は同一色相が最も調和し、色相が離れるほど評価は下がったが、全体的に色票と比べ評価は低かった。また、上下の配色を逆転させた場合、高明度より高彩度の方が評価の差が大きく、トップス、ボトムスともに高彩度では青や青緑、高明度では赤や赤紫の評価が高かった。この結果は色票での評価と異なっており、<u>着装を念頭に入れた評価の必要性が示唆された。</u></p> <p>(P. 111) [共同研究につき抽出不可] 著者：鷺津かの子, 小町谷寿子, <u>熊田亜矢子</u>, 畑久美子, 戸田賀志子, 石原久代</p> <p>【関連授業科目：ファッションデザイン論, ファッション・ビジネス, カラーコーディネート演習】</p>
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 永野 晴康				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. スペイン語基礎講座	単	令和元年 11 月	(8 頁)	<p>本学の学生でヨーロッパの言語と文化に関心がある学生に対して、アカデミックサポートセンターの企画として、2 回にわたってスペイン語基礎講座を行った。国際社会の言語と文化、ヨーロッパの文化の授業にも関連している。</p> <p>【関連授業科目：国際社会の言語と文化】 【関連授業科目：ヨーロッパの文化】</p>
(その他) 1. 2019 年度 教員免許状更新 講習「近年の教育 に係る法令改正 及び国の審議会 の状況等につい て」	単	令和元年 8 月	(80 頁)	<p>「近年の教育に係る法令改正及び国の審議会の状況等について」を担当し、教育基本法、学校教育基本法、地方教育行政法、教育職員免許法等の近年の教育法規の改正状況を踏まえた教育法規に関する教材を作成し、更新講習を行った。(pp:1～80)</p> <p>【関連授業科目：教育と法】</p>

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 檜崎 久美子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 祭礼に用いられる装束の実態－殿賀花田植えの胴取りの衣装を例に－ 2. 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について(第4報)	単 共	令和2年 3月 令和2年 3月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第7号 (94頁) 広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第7号 (94頁)	<p>広島県安芸太田町で地域の伝統行事として親しまれている「殿賀花田植え」に登場する胴取りの衣装について、装束の計測、素材の確認等を行い、また、花田植え関係者への聞き取り調査を行った。前年度の調査結果と今後この行事を伝えていくための課題が明らかとなった。(資料) (PP. 75～78)</p> <p>【関連授業科目：衣生活論(含被服学概論)、日本服装史、服飾美学】</p> <p>2016年度から継続しているキリスト教主義教育が非認知能力を育てる可能性があるのではないかと、という仮説のもと、「キリスト教の時間」に提出されるコメントカードのテキスト分析を行っていた。本稿では、2018年度前期・後期のコメントカードの分析、考察を行った。すべての内容に関し、共同研究者と検討を重ねており、研究における担当箇所の抽出は難しいが、主な執筆部分は「3. 研究目的及び方法」と「4. 結果及び考察」の結果を担当した。(pp. 51～59)</p> <p>著者：前田美和子、加藤美帆、檜崎久美子、田中沙織</p>
(教育実践記録等) 1. 地域における行事を軸としたESDのための教材開発	単	令和元年～ 2年度	広島女学院 大学学術助 成(個人研 究)	本研究は2018年度の共同研究に引き続き行っている、地域の伝統行事を題材として、ESD及び新学習指導要領で教育内容の主な改善事項である「伝統や文化に関する教育の充実」及び「体験活動の充実」を図るために教材を検討するものである。これまでの調査を踏まえ、その資料の補完及び授業の計画、教材の作成、実践、検討を行った。
(その他) 1. 尾道小学校教育研究会家庭科部会研修講師 2. 地域の祭礼装束を題材とした	単 一	令和元年 7月25日 令和元年 8月17日	尾道市立三 成小学校 日本家庭科 教育学会中	<p>尾道市内の小学校で家庭科を担当する教員向けに新学習指導要領における家庭科の扱い、小中高の連携、ESDについての講義及び小学校家庭の授業で応用できる「あずまぶくろ」の作成実習を行った。参加者は25名程度であった。</p> <p>中学校の全4時間の授業として殿賀花田植えの早乙女衣装を例とした祭礼装束を教材とした授業提</p>

家庭科衣生活分野の教材化について（発表）			国地区第39回研究発表大会（島根大学）	案を行った。単なる和服の理解だけにとどまらず、社会的機能裳を持っていることから食文化や家族・地域との関わりなどほかの単元と関連させることが可能であり、また ESD の視点を取り入れた複合的な教材としての可能性を示唆した。
3. 教育免許状更新講習講師	—	令和元年 8月19日	広島女学院大学	中高家庭科の教育免許状更新講習の講師として、単独で180分、共同で180分担当した。 単独の内容は学習指導要領衣生活分野の記述を踏まえた被服選択について、また新学習指導要領に含まれた和服文化についてである。共同の内容は被服コーディネート実習とそのイメージマップ制作であり、 <u>檜崎はコーディネート実習の補佐とイメージマップ制作時のPC操作の補佐を行った。</u> 講習共同担当者：三木幹子、 <u>檜崎久美子</u>
4. ESD ティーチャープログラム共催及び講師	—	令和元年 8月27～28日	広島女学院大学	近畿 ESD コンソーシアムが主催する新学習指導要領に盛り込まれた持続可能な社会の構築の観点の理解を深めるため、SDGs や ESD の理論を学び ESD を実践する力量の向上を目指す講座を誘致し、本学で開催するにあたり事務局を担当した。また、研修3において「ESD の授業づくり」と題し、実践報告を共同で行った。 <u>檜崎は「新学習指導要領を踏まえた家庭科の授業づくり」と題し発表した。</u> 共同報告者：植西浩一、 <u>檜崎久美子</u> 、本学学生4名
5. 尾道小学校教育研究会家庭科部会研修講師	単	令和元年 9月26日	尾道市立三成小学校	1. の研修を踏まえ、公開授業とその検討会が行われ、授業に対してのコメント、今後の小学校家庭科の実践に向けてのアドバイスをを行った。
6. 地域の祭礼装束を用いた家庭科授業の実践	共	令和元年 11月20、 22、28、30日	広島なぎさ中学高等学校	2. を踏まえ作成した学習指導案に従い、広島なぎさ中学校1年生を対象に50分×2時間の授業を行った。 <u>檜崎は指導案、授業用PP、教材などの準備を行い、第1回目のみ一部授業、と記録（写真、動画）を担当した。</u> 他の授業においては共同研究者が配布資料の作成と授業運営を行った。 共同研究者：池田並穂教諭（広島なぎさ中学高等学校）、 <u>檜崎久美子</u>
7. SDGs 特別勉強会主催・運営	単	令和2年 2月8日	広島女学院大学	本学家庭科教職課程勉強会の一環として、崇徳中学・高校の花野木真紀先生を講師に「SDGs 2030」というカードゲームを用いた SDGs に関する勉強会的主催・運営を行った。当日参加学生は20名で、 <u>ゲーム終了後におこなった学生の交流・検討の進行を主に担当し、家庭科だけでなく国語・英語の教員取得希望者にも新しい視野を獲得させる機会となった。</u> 運営協力者：植西浩一

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 塚野 路哉				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. MINIMAL is MAXIMAL (Architects of the year 2018)	共	令和元年 6月	日本建築設 計学会 (2頁)	建築構造力学の実践的研究である。等分布荷重によって生じるモーメント分布をトラスの形状に置き換える提案によって、20m スパンの無柱空間を実現する住宅を計画している。住宅における基本的な行為を一枚の屋根で覆うことで、建築工事によって自然体系を破壊することを極力避け、自然と建築との物理的な接点を最小限に留める手法を模索している。(pp. 4~5) 著者：小川晋一、塚野路哉、他 8 名 【関連授業科目：構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ】
2. WHITE HOUSES	共	令和元年 7月	Thames & Hudson (6頁)	イギリスで発行された建築専門書であり、九州で実施した自身の建築作品を、写真や言説、図面によって解説している。掲載された作品は、 <u>雑多な周辺環境との意識的な断絶を可能とする提案であり、都市部における住環境の新たな知見となり得る。</u> (pp. 166~171 頁) 著者：Philip Jodidio、塚野路哉、他 42 名 【関連授業科目：建築施工、建築材料学】
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 広島女学院 Extensive Program 講座	—	令和2年 2月	広島女学院 高校	広島女学院高校にて、中・高校生を対象とした講義(建築構造入門)を行う。

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン学科 伊藤 千尋				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 食と農のフィールドワーク入門	共	平成 31 年 4 月	昭和堂 (245 頁)	うち File 13 「行商やその利用者を調査しよう」、File 27 「ザンビアへフィールドワークに行ってみよう」を担当し、フィールドワークの方法について事例をもとに解説した。 (荒木一視、林紀代美編、伊藤千尋、他 21 名) 【関連授業科目：地域調査法】
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 人文地理学会・第 291 回例会報告「フィールドワークを考える：私たちはどのようにして調査地との関係を取り結ぶのか」	—	令和元年 10 月	人文地理 第 71 巻 4 号 (4 頁)	人文地理学会の第 291 回例会において、「ザンビアの調査経験からフィールドワークを考える」という題目で報告した内容を記述した。例会では伊藤のほか、2 名の報告者がフィールドとの関係性における課題について報告し、議論した。 (pp. 442-445)

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 石長 孝二郎				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 臨床栄養学実習－傷病者の栄養管理プロセス演習－	共	令和 2 年 2 月	医歯薬出版 株式会社 (5 頁)	2018 年度に出版した著書の第 2 刷発行である。2015 年版モデルコアカリキュラムを踏まえ、臨床栄養学実習の傷病者の栄養管理プロセス演習が編集された。演習では、対象者の健康・栄養状態を適正に栄養評価して、栄養診断し、栄養介入を計画・実施し、栄養モニタリング・評価を行う PDCA サイクルを回すための応用力、統合力、マネジメント力が求められる。筆者は、さまざまな疾患に対する栄養管理において、メタボリック症候群を担当し、症例を分析して栄養評価や栄養診断のやり方を解説した。 (pp. 37～41) 川島由起子, 塚原丘美, 加藤昌彦, 石長孝二郎, 井上啓子, 榎村春江, 太田真実子, 片桐義範, 熊本登司子, 小見山百絵, 金胎芳子, 中東真紀, 藤岡由美子, 和田安代 【関連授業科目：臨床栄養学実習, 臨床栄養管理学】
2. ステップ臨床栄養管理演習(第 2 版)	共	令和 2 年 2 月	建帛社 (12 頁)	2017 年度に出版した管理栄養士養成校向けの疾病に関する臨床栄養管理演習の教科書の第 2 版である。内容は栄養管理の経験が少ない学生向けに、管理栄養士養成校で栄養管理プロセスが学修できることを目的に作成した。担当は臨床栄養管理の実践であり、栄養状態の考え方、情報収集、収集した情報に基づく栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入を実践に基づいて解説した。 (pp. 16～27) 永井徹, 長谷川輝美, 石長孝二郎, 大津美紀, 落合由美, 片桐義範, 竹内真理, 田中寛, 調所勝弘, 比嘉並誠 【関連授業科目：臨床栄養学実習, 臨床栄養管理学】
3. 在宅、施設、病院で活用できる栄養管理プロセス－理論・活用・症例－	共 (編著者)	令和 2 年 3 月	建帛社 (70 頁)	2018 年に日本栄養士会が推奨している栄養管理プロセスの実践的な入門書として出版した著書の最新改訂版であり、著書の編著者として、全体の内容構成や著書内容すべての確認を行った。本書は、栄養管理プロセスの概念から理論、実際の運用の仕方についてわかりやすく解説した著書である。さらに、在宅、施設、病院で応用できるように 11 症例を提示し、管理栄養士が栄養ケアプロセスを運用しながら効果的な評価・プランの仕方について解説し

				た。(pp. 37~91, 103~112, 113~117) 著者：石長孝二郎, 片桐義範, 岡本理恵, 近藤高弘, 酒井友哉, 佐々木達也, 田所真紀子, 永井徹, 長谷川輝美, 平野和保, 村崎明広, 山本貴博 【関連授業科目：臨床栄養学, 臨床栄養管理学】
(学術論文等) 1. 食事苦情の訴えを考察するための女子大学生を対象としたレトロネーザル知覚に伴う嗅覚と味覚の関連(査読付)	単	令和元年 12月	栄養学雑誌 Vol. 77 No. 6 p. 1-9 (9頁)	がん治療対策食を考案するための予備的検討として、女子大学生を対象に、食べ物の咀嚼中に発生したニオイをレトロネーザル経路でどの程度感知しているか、また、“おいしさ”の評価との関連を検討した。その結果、鼻栓をしてレトロネーザル知覚を封鎖することで、すべての食材試料中でパクチーの感知評価が大きく低下した ($p < 0.001$)。また、パクチーの感知とおいしさの評価には負の相関が認められ、パクチーを強く感知した場合にはおいしさの評価が低下した。ヒトの訴える味の感想は、味覚感知だけではなく、レトロネーザル経路による嗅覚の感知もあり、味覚と混同しやすいことがわかった。また、ニオイに誘発される嫌悪は、ニオイの全体から特定の嫌悪を感じるニオイを認識した時においしさの評価が低下することが考えられた。 【関連授業科目：臨床栄養学】
2. がん治療対策食を考案するための予備的検討：香味野菜と香辛料を活用した臭いに誘発される食物嫌悪の抑制効果(査読付)	共	令和元年 9月	日本病態栄養学会誌 Vol. 22 No. 3 p. 197-205 (9頁)	がん化学療法中の食物嫌悪への対応を考えるための予備的検討として、臭いに誘発される食物嫌悪が香味野菜や香辛料を活用することで抑制されるかどうかを検討することを目的とした。健常者を対象に、がん治療中の患者に食物嫌悪を生じさせた0.1%アンモニア混入煮魚に生姜を加え、臭いに起因した嫌悪の程度をビジュアルアナログスケールにより評価した。また、焼魚の素焼とカレー粉焼に0.1%アンモニア水を散水し、同様にVASでの評価を行った。その結果、アンモニア混入煮魚の生姜なしと生姜煮では両者に差は認められなかったことから、がん治療中患者の臭いに起因した食物嫌悪を生姜で改善することは難しいと考えられた。一方、アンモニア水を散水した焼魚での素焼とカレー粉焼では有意差が認められ、カレー粉で食物嫌悪を改善できる可能性が示唆された。 著者：石長孝二郎, 岡村仁 【関連授業科目：臨床栄養学】
3. 嗅覚感知を“味”と錯覚している可能性の検討・金属味のメカニズムの予測(招待あり)	一	令和元年 10月	第17回 広島NST研究会	広島NSTアワード 最優秀演題賞 受賞 がん患者の訴える金属味は味覚でなく、嗅覚の感知であることを、女子大学生を対象とした食べ物の咀嚼中に発生したニオイのレトロネーザル経路の感知実験より検証した。また、先行研究のがん患者の金属味の訴え内容から、がん患者の口腔内の出血による鉄の供給と、抗がん剤治療による上皮細胞の剥

<p>4. がん患者の栄養管理 化学療法施行時・緩和ケア時における支援 がん患者の栄養管理について管理栄養士に望むこと（招待あり）</p> <p>5. 悪性リンパ腫患者において化学療法中に食物のにおいを嗅ぐことにより誘発される情動反応（快・不快）の変化</p> <p>6. 香味野菜・香辛料を使用した際の食物の匂いに対する気分の快・不快の変化</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>令和2年 1月</p> <p>令和2年 1月</p> <p>令和2年 2月</p>	<p>第23回日本病態栄養学会年次学術集会シンポジウム</p> <p>第23回日本病態栄養学会年次学術集会一般演題</p> <p>第27回広島県栄養改善学会</p>	<p>落によるリン脂質の提供により化学反応が起こり、金属臭を発生させている仮説を発表した。 発表者：石長孝二郎 【関連授業科目：臨床栄養学】</p> <p>がん患者の栄養管理での化学療法施行時・緩和ケア時における支援について、抗がん剤治療に伴う嗅覚変化の現状について解説した。また、嗅覚変化に伴う味覚変化、嗅覚減退・嗅覚過敏のメカニズム、食べやすいフルーツと嘔気の出現しやすい煮魚の症状出現のメカニズムについて幅広く解説した。 発表者：石長孝二郎 【関連授業科目：臨床栄養学】</p> <p>悪性リンパ腫患者への抗がん剤投与による食事のニオイによる快・不快の変化を把握するため、抗がん剤前、抗がん剤中、抗がん剤投与終了後でVAS法により気分の快・不快の変化を観察した。その結果、シクロフォスファミドを基盤とした化学療法では嗅覚変化は起こっておらず、食事摂取量は保たれていた。 発表者：石長孝二郎，別府成人，生田里奈，他6名 【関連授業科目：臨床栄養学】</p> <p>悪臭の0.5%アンモニア水を1ml 散水した焼魚に香味野菜の生姜や香辛料のカレー粉が悪臭をマスキングできるか検討した。その結果、香味野菜の生姜は不快な気分のニオイを多少抑制する効果があるが、香辛料のカレー粉には不快な気分のニオイを抑制する効果は認められなかった。しかし、先行研究では、本研究よりも濃度の薄い0.1%アンモニアを1ml 散水した際に、カレー粉による不快な気分のニオイを抑制する効果が認められていた。このことから、香味野菜の生姜や香辛料のカレー粉の不快な気分のニオイの抑制効果は、不快なニオイの強さの程度と香味野菜や香辛料の最適な閾値が関係しているのかも知れないと考えられた。 発表者：石長孝二郎 【関連授業科目：臨床栄養学】</p>
<p>(教育実践記録等) 特記事項なし</p>				
<p>(その他) 特記事項なし</p>				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 下岡 里英				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 栄養・健康科学シリーズ 11 栄養教育論	共	令和2年 3月	化学同人 (204頁)	<p>管理栄養士・栄養士養成課程の教科書。栄養教育について記述。栄養教育のための理論的基礎(2章)(pp. 25~34、36~50)の執筆を担当。栄養教育において特に重要となる行動科学理論(トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論、ヘルスビリーフモデル、社会的認知理論、イノベーション普及理論等)、行動変容技法、栄養カウンセリング、組織づくり、地域づくり、食環境づくりについて執筆。著者：石見百江、垣渕直子、塩田良子、<u>下岡里英</u>、野津あきこ、藤澤克彦、森岡美帆 編者：垣渕直子、<u>下岡里英</u></p> <p>【関連授業科目：栄養教育論】</p>
(学術論文等) 特記事項無し				
(教育実践記録等) 特記事項無し				
(その他) 特記事項無し				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 渡部 佳美				
著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 学会発表 広島県の家庭料理 副菜の特徴－ 副菜にみる地域特性－ 著作 伝え継ぐ日本の家庭料理 漬物・ 佃煮・なめ味噌	ー 共	令和元年 8月 令和元年 9月	日本調理科学会 日本調理科学会 2019 年度大会研究発表要旨 集 (1 頁) (令和元年 8月 26・ 27 日) 福 岡県 一般社団法人農山漁村 文化協会, 別冊うかたま (1 頁)	昭和 30～40 年頃までに定着していた地域の郷土料理と、その暮らしの背景を明らかにするため、広島県内の副菜の地域特性について調査した。地域は東部台地、福山地域、尾道・三原地域、芸北山間地域、瀬戸内沿岸地域、西部地域、中部台地、備北山間部の 8 地域に区分した。山間部と瀬戸内海沿岸地域では食材の特徴や日常食と非日常食の調理方法の相違を明らかにした。本人担当部分：中部台地の聞き書き調査およびデータの総括 (p.99) (渡部佳美, 奥田弘枝, 石井香代子, 近藤寛子, 瀧上倫子, 高橋知佐子, 岡本洋子, 海切弘子, 上村芳枝, 北林佳織, 木村安美, 木村留美, 小長谷紀子, 塩田良子, 前田ひろみ, 村田美穂子, 政田圭子, 山口享子) 一般社団法人日本調理科学会において、「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」の全国的な調査研究を行い、地域に残されている特徴ある家庭料理を聞き書調査により地域の暮らしの背景とともに記録した。調査基準はおよそ昭和 35 年から 45 年までに地域に定着した家庭料理であり、地域の人々が次世代以降もつくってほしい、食べてほしいと願っている料理とした。さらに、各県から 40 品を選出し、16 のテーマに分類して刊行することとなった。著作委員として「広島菜漬け」の調査および執筆を担当した。 (p.45) (企画・編集：一般社団法人 日本調理科学会, 編集：遠藤隆士, 芳賀敦子, 中田めぐみ, 伊藤照手, 担当部分著作委員：渡部佳美)

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 市川 知美				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 若年女性における排便状況と食事からの発酵食品摂取の関係	単	令和2年 3月	広島女学院 大学人間生活学部紀要 第7号 (5頁)	本研究の目的は、 <u>若年女性における発酵食品の摂取と排便状況の関係を調べる</u> ことである。 被験者が最も多く摂取した発酵食品は、ヨーグルトやチーズといった動物性発酵食品で、植物性の発酵食品は少なかった。特に、便秘群はコントロール群よりも植物性発酵食品に対する動物性発酵食品の比率が高かった。加えて、便秘群はコントロール群に比べ味噌汁の摂取頻度が少なかった。したがってこれらの結果は、植物性発酵食品や味噌汁を含む日本食が、排便状況に対して影響を与えていた可能性が示唆された。(p.17-21) 著者：市川知美 【関連授業科目：公衆栄養学実習】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 2018年度管理栄養学科海外フィールドワーク報告書	共	令和2年 3月	広島女学院 大学人間生活学部管理栄養学科 (59頁)	本報告書は2018年度に実施された、管理栄養学科海外フィールドワークについて実施内容と学生の研究テーマについてまとめた報告書である。管理栄養海外フィールドワークは1・2年生対象に実施され、管理栄養士・栄養士を目指す学生が、日本国内だけでなく諸外国の栄養問題にも意識を向け、諸外国の学生との交流の中で、地球レベルでの栄養の課題と取り組みについて考える意欲を高めることを目的としたものである。(共同につき抽出不可) 著者：土谷佳弘、石長孝二郎、市川知美、妻木陽子
2. 夜遅い食事は歯周病のリスクを上げるか？食事の質と摂取時刻の比較研究(第2報)	一	令和元年 9月	第66回日本栄養改善学会	本研究は口腔内環境を良好に保つ働きを助けるL8020株含有ヨーグルトの摂取有無と、食事内容や摂取時刻が歯肉の炎症に与える影響を明らかにすることを目的とした。歯肉の炎症状態を示すBOPと高感度CRP、歯垢に含まれる歯周病菌の割合はL8020株含有ヨーグルトの摂取有無や食事内

<p>3. 災害時に備えた食料備蓄について考えよう</p>	<p>—</p>	<p>令和元年 10月</p>	<p>早稲田アカ デミー</p>	<p>容、摂取時刻の違いによる明らかな差はみとめられなかった。1週間の平均排便回数は、バランス食の規則的食事群では L8020 株含有ヨーグルトを摂取しなかった群で 8.7 回、摂取した群で 8.3 回だったのに対し、L8020 株含有ヨーグルトを摂取した高脂肪で規則的な食事群と不規則な食事群はいずれも 5.3 回、6.0 回と有意に減少した。 発表者：市川知美、朝日綾子</p> <p>本講座は、早稲田公民館（広島市東区）が本学との連携事業として実施したものである。参加者は約 30 名であった。自然災害への備えは、今や当たり前の時代となった。災害時の食料といっても発生後すぐの非常食と中・長期的な避難生活用の食料では、重視する点が異なる。この講座では、様々な場面を想定しながら、どのような食料を備蓄しておけばよいか栄養的な面も考慮しながら参加者とともに考えた。</p>
<p>4. 保育の中の「食」分科会報告</p>	<p>単</p>	<p>令和 2 年 3 月</p>	<p>ヒロシマの 保育 第 20 号 (2 頁)</p>	<p>2019 年 10 月 27 日に実施された第 20 回広島県保育団体合同研究集会の分科会「保育の中の「食」」において、2 名の保育士による事例紹介と取り組みに関する提案をもとに、参加者とディスカッションした内容をまとめた報告書である。</p>

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 佐藤 努				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Aging of Dried Japanese Anchovies (<i>Engraulis Japonicus</i>) during the Processing Period. (和文タイトル：カタクチイワシ干物製造工程における熟成進度の観察)	共	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生 活学部紀 要, 第 7 号 (5 頁)	新鮮なカタクチイワシをフィレーにし, 10%食塩水に一定時間浸した後, 冷蔵群 (4℃貯蔵) と干物加工群 (約 28℃陰干し) に分けた。一方でカタクチイワシの煮干しを調製し, それらの <u>ATP 関連物質</u> 量および鮮度恒数 K 値, 水分活性, 腐敗指標である <u>揮発性塩基態窒素量</u> の変化を調べた。冷蔵群では, 旨味物質であるイノシン酸の貯蔵時間経過に伴う減少は, 塩水に浸漬する時間が長いほど緩やかだった。それに対し干物では, イノシン酸の減少は塩水浸漬時間が長いものも他と同様に急激であり, 干物完成時のイノシン酸残存量は, とても低かった。一方, 煮干しのイノシン酸含量および K 値は新鮮なフィレー同様の値を示し, 干物と煮干しの旨味の質が異なることが判った。電気泳動結果からは, 干物のタンパク質が時間経過とともに低分子化しつつ乾燥により濃縮されることが判り, <u>旨味へのイノシン酸の貢献度が高い新鮮なフィレーや煮干しに対して, 干物ではタンパク質が分解されて生じる連続的な低分子化物質群がより旨味に貢献している</u> ことが推察された。(pp:79~83) 著者: 佐藤 努, 佐々木 彩 【関連授業科目: 食品学 I・II】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 土谷 佳弘				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 2018 年度管理栄養海外フィールドワーク報告書	共	令和 2 年 3 月 10 日	広島女学院 大学	本プログラムは、特別セミナーⅡ(管理栄養学科海外フィールドワーク)として実施され、管理栄養士・栄養士を目指す学生が、日本国内だけでなく諸外国の栄養問題に意識を向け、アメリカ合衆国ハワイ州における栄養の課題について報告書としてまとめた。(共同研究につき抽出不可) 著者：市川知美、妻木陽子、 <u>土谷佳弘</u>

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 妻木 陽子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 栄養教室が盛り上がる！疾患別わくわくスライド WEB でダウンロードしてすぐに活用できる！ 8. アレルギー	共	令和2年 1月	Nutrition Care 13 巻1号（メ ディカ出 版） (7頁)	本書は臨床の管理栄養士向けの専門誌である。執筆を担当した特集は、栄養教室のポイントやスライド、シナリオ例を疾患別に掲載し、栄養指導の改善に繋げることを目的として組まれた。著者は、 <u>食物アレルギー患者およびその家族に対する栄養指導</u> として、食事療養のポイント、アレルゲン別栄養管理の方法、誤食対応、アレルギー表示について解説をした。また、患者から聞かれる質問と回答例についても提示した。(pp. 50～56) 著者：北島幸枝、 <u>妻木陽子</u> ほか7名 【関連授業科目：ライフステージ別栄養学、基礎栄養学】
2. 栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学（改訂第2版）第6章 成長期（幼児期、学童期、思春期）	共	令和2年 3月	株式会社 羊土社 (30頁)	本書は、管理栄養士・栄養士を目指す学生を対象とし、管理栄養士国家試験出題基準に準拠した内容が盛り込まれた応用栄養学分野のテキストである。著者は、 <u>成長期である幼児期、学童期、思春期に関する項目</u> を執筆し、各ライフステージの生理的特徴や疾病、栄養アセスメントと栄養ケアについて解説した。また、生活習慣および食生活での課題を取り上げ、現在求められる栄養管理についても解説した。(pp. 127～156) 著者：栢下淳（編者）、上西一弘（編者）、 <u>妻木陽子</u> 、山縣誉志江ほか10名 【関連授業科目：ライフステージ別栄養学】
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 地域別による食物アレルギー対応食品の取扱い状況と地域差の把握	—	令和元年 9月	第66回日 本栄養改善 学会学術総 会講演要旨 集 p191	食物アレルギー対応食品の地域別での取扱い状況の調査を行った。その結果、患者会の実数が多い地域や、学校での食物アレルギー対応が早い地域においては、取扱い数が多いことが明らかとなった。また、患者会を通じて、コメディカルや食品企業など幅広い分野への情報提供もされていた。一方、専門コーナーの設置が全くなされていない地域もあり、取扱い状況には地域差が見られ、その要因として周囲の認識の違いが影響することが示唆された。 著者： <u>妻木陽子</u> 、坂井堅太郎（共同研究につき、抽出不可：市場調査の実施、総括を担当）

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 野村 知未				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 【共同研究】 1. ガスダッチオープン調理のおいしさに関する研究	—	平成 30 年 11 月 8 日～ 令和 2 年 3 月 31 日		これまでの研究で煮物にてうま味を引き出すことが確認されたガスダッチオープンについて、焼き物（パンおよび焼きいも）における美味しさについて明らかにした。 共同研究者：広島ガス株式会社（水馬義輝）、西部ガス株式会社（山本克也，林秀之）、県立広島大学（杉山寿美）、広島文教大学（戸松美紀子）、広島女学院大学（野村知未）
【競争的資金】 1. 餡粒子の口腔粒子感覚と芳香が豆類のおいしさに及ぼす影響	—	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	助成機関 日本豆類基金協会	餡の加熱方法や副材料の添加による口腔感覚および報告の変化を明らかにし、それに伴う嗜好性の変化について明らかにした。本研究内容については、現在論文投稿中（査読有）である。

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 神野 正喜				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 思考力・判断力・表現力を育てる国語科授業の創造	—	令和元年 8月21日	主催：広島市小学校教育研究会国語科部会 後援：広島市教育委員会	第59回国語教育夏季研究会において、「思考力・判断力・表現力を育てる国語科授業の創造」という演題に沿って、「思考力・判断力・表現力」とは如何なる能力を指す用語なのか、それらを育てる国語科授業のあり方や授業構想・授業展開の具体的な方法について講話を行った。

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 三榎 正典				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. ジャパニーズ・モダン	単	令和2年 3月	レタープレス社 (105頁)	「ジャパニーズ・モダン」をテーマに、我が国の日本美術史を振り返るとともに、「ジャポニズム」や「クールジャパン」など海外から見た日本美術の魅力を考え、日本の伝統文化と現代アートの融合させた新たなアート「ジャパニーズ・モダン」の創造を目的とするものである。作家自らが制作した作品について理論を加え、「作品」と「理論」構築を図るとともに、新たな作品鑑賞のあり方を提示するものでもある。 【関連授業科目：初等図画工作科教育法（鑑賞）】
(学術論文等) 1. 屏風絵「枝垂れ桜」「咲き椿」「散り椿」	単	令和2年 2月	幼児教育心理学科研究紀要 (広島女学院大学) (6頁)	広島県安芸郡海田町の登録有形文化財(建造物)として登録されている三宅家住宅の蔵に所蔵されている明治期に制作された無地の屏風に直接絵を描いた経緯と制作過程をまとめた制作論文である。 【関連授業科目：初等図画工作科教育法（表現）】
(教育実践記録等) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 中村 勝美				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(学術論文等) 1. イングランドにおける中等学校修了資格試験の成立過程—SCEを中心として— 2. 地域協働型アクティブ・ラーニングによる学習効果に関する研究—保育者養成における幼児の読書普及活動を中心に—	単	令和2年 3月	広島女学院 大学人間生活学部紀要 第7号, 39-49頁 (11頁)	本稿では、イギリスの中等教育において最初の全国統一試験となった中等学校修了資格試験 (School Certificate Examination) の成立過程を明らかにした。19世紀から20世紀初頭、中等教育改革に関与したトーントン、ブライスの両調査委員会およびアクランドによる諮問委員会はいずれも、学外試験と学校査察の併用を答申した。しかしながら、財政上、行政上の予想される困難から、教育院の主導により、学外試験が採用された。 【関連授業科目：教育史】
	単	令和2年 3月	広島女学院 大学幼児教育心理学科 紀要第6号, 23-29頁 (7頁)	本学児童教育学科の「よるのとしょかん」に参加した学生を対象に質問紙調査を行い、学習効果を測定した。この活動は地域の幼児への読書普及活動であり、教育課程外のサービスラーニングである。本活動への参画を通じて、他者との協働性、創造性の育成、今後の学習課題の意識化の効果が示唆された。中心的役割を担った学生だけでなく、ボランティアとして参加した低学年の学生にも、これらの効果が認められた。 【関連授業科目：保育者論】
(その他) 1. 書評 安原義仁、ロイ・ロウ著『「学問の府」の起源—知のネットワークと「大学」の形成』(知泉書房、2018年) 2. 報告書 平成30年広島豪雨災害時における保育士養成校の実習での危機対応の実態と課題	単	令和元年 8月	日英教育研究フォーラム 117-119頁 (3頁)	安原義仁、ロイ・ロウ著『「学問の府」の起源—知のネットワークと「大学」の形成』(知泉書房、2018年)について、概要を紹介し、大学史、科学史の観点からその位置づけについて書評した。
	共	令和2年 3月	一般社団法人全国保育士養成協議会 学術研究助成報告 (196頁)	平成30年7月の広島豪雨災害時、保育実習中であった学生及び災害後に保育実習を行った学生、養成校(実習指導担当者)、受け入れ施設(保育所及び児童福祉施設)に質問紙調査を行い、災害時にどのような危機対応が行われたのか、また事前に学生に対しどのような指導があったのか、実習施設との協定や学生の安全確保や連絡手段等について調査し、今後の課題を明らかにした。 報告者：西川ひろ子、山田修三、長友洋喜、中村勝美、中原大介、合原晶子、杉山直子、上村加奈、岡本晴美、高橋実(担当部分：インタビュー・質問紙調査の実施、調査の分析)

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 戸田 浩暢				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 新たな価値を実感する算数科授業	共	令和 2 年 2 月	広島女学院 大学論集 第 67 集 (電子版第 7 号) (14 頁)	算数科の学習内容は系統的であり、新たに学ぶ内容の多くは既に学んだ内容の上に成り立っている。つまり、既習事項を活用する力を育てることが算数科の重要な課題なのである。集団解決において発現した個々の考えを基に比較・検討する協働的な学習により新たな価値(算数のよさ)を見い出して味わうことは、この既習事項を活用する力の原動力となる。そこで、新たな価値(算数のよさ)を生み出して実感する算数科授業の在り方について具体的な事例に基づき考察した。(pp.47~60) 著者：戸田浩暢、奥金実
2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からみた算数科授業づくり	共	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生 活学部紀要 第 7 号 (12 頁)	平成 28 年に中央教育審議会答申が発表され、新しい時代に必要な資質・能力を、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点で示された。算数科においても目標・内容が見直され、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程の改善が求められている。そこで、本稿では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、これからの算数科授業の在り方について、問題解決の各過程における重要な要素を明らかにしながら考察した。(pp.27~38) 著者：戸田浩暢、奥金実
3. 算数科授業のユニバーサルデザイン化	共	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生 活学部幼児 教育心理学 科紀要 第 6 号 (13 頁)	授業で困っている児童への支援の必要性が高まっており、この問題への対応として授業のユニバーサルデザイン化に関する研究が発表されている。ここでは学習指導要領解説や発達障害の特性の知見に基づき、算数科授業のユニバーサルデザイン化について考察する。特に、視覚支援(図)の活用を中心に学習過程の各段階での支援の工夫をまとめ、授業で困っている児童のための手立てを明らかにする。そして、児童の困難さを減じて思考力・表現力を高める望ましい算数科授業の在り方を考察した。(pp.9~21) 著者：戸田浩暢、奥金実
(教育実践記録等) 特記事項なし				

<p>(その他) 広島県立佐伯高等学校学校運営協議会委員(議長)</p>	<p>—</p>			<p>広島県において2019年度から開始されたコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)に係り、広島県立佐伯高等学校学校運営協議会委員(議長)に就任。6月28日(本年度重点目標と取組方針)・10月24日(上半期の取組と中間評価)・3月17日(下半期の取組と年度評価)の3回参加。議長として議事進行に従事。</p>
---	----------	--	--	---

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 山下 京子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 発達障害と特別支援教育	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学幼児教育心理学科 研究紀要第 6 号 (8 頁)	ニューロダイバーシティと言うタームは、ヒトの神経学的な差異が、文化や性的志向などの多様性の一つであるという概念として定義されている。ニューロダイバーシティの観点から、特別支援教育においても、発達障害のある子どもの強みに着目した支援のあり方が注目されている。 <u>教員養成課程における授業科目「特別支援教育」は、多様性を包摂する共生社会について考える機会を学生に提供すると考えられた。</u> 【関連授業科目：特別支援教育】
2. ニューロダイバーシティの観点から見た発達障害学生の就労支援	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生活学部紀要 第 7 号 (9 頁)	ニューロダイバーシティの観点から、発達障害のある大学生の就労支援について論じた。大学の障害学生支援において、大学から就労への移行支援について関心が高まっている。中でも発達障害のある大学生に対する就労支援では、 <u>ニューロダイバーシティの観点を取り入れ、発達障害学生の特性を強みとする就労支援の検討が必要である。</u> 当事者である発達障害学生が自分の言葉で自分について語ることを通して、自分の特性を強みとして理解し、自身の特性に合わせた社会場面を選択するというプロセスを支援する技法や面接方略の開発が期待される。 【関連授業科目：特別支援教育】
3. 発達障害のある女子大学生のためのキャリア発達支援の在り方について	単	令和 2 年 2 月	広島女学院 大学論集 67 卷 (13 頁)	広島女学院大学の「障がい学生高等教育支援室における障害学生支援の実践を基に、ライフキャリアの観点を導入した障害学生の就労支援、中でも発達障害やその特性のある学生に焦点を当てた就労支援の在り方についてモデルを提案した。さらに、発達障害やその特性のある学生の就労支援における今後の課題を明らかにした。
(教育実践記録等) 特記事項なし				

<p>(その他)</p> <p>1. ライフキャリアの観点を導入した障害学生の就労支援</p>	<p>共</p>	<p>令和元年 6月</p>	<p>全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEADJAPAN) 第5回大会ポスターセッション</p>	<p>2019年6月29日、国立オリンピック記念青少年総合センターで、広島女学院大学障がい学生高等教育支援室で実践した発達障害学生の就労支援について、学外機関との連携の様子や、卒業後の進路状況、就労支援のモデルをポスター発表した。</p> <p>発表者：山下京子・南原麻里 (共同研究につき抽出不可)</p>
---	----------	--------------------	--	--

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 加藤 美帆				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 心をひらく道徳授業実践講座【1】やさしい道徳授業のつくり方《改訂版》	共	令和元年 9月	溪水社	道徳授業実践に関する理論と実践についてまとめた書籍で、平成 24 年上梓の初版の改訂版である。平成 27 年の学習指導要領改訂により道徳が教科化されたことを受け、大幅な加筆修正を行っている。初版から引き続き、第 4 章子どもの道徳性の発達的特徴の、1. 道徳性の発達理論を分担執筆し、道徳性の発達および向社会的行動に関する主要な理論について概要をまとめた。(pp. 27~30) 著者：鈴木由美子・宮里智恵・青谷章弘・穂山小百合・越智昌博・小原智穂・加藤美帆・末長純太・砂走愛・高橋倫子・平田剣士郎・椋木香子・森川教子・山内規嗣 【関連授業科目：保育の心理学、保育の心理学Ⅱ、発達心理学、子どもの理解と援助、幼児教育相談】
(学術論文等) 1. 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について(第 4 報)	共	令和 2 年 3月	広島女学院 大学人間生 活学部紀要 第 7 号 (8 頁)	キリスト教主義教育が、学生の非認知能力の育成にいかに関与しうるかについて実証的に明らかにすることを目的とした継続研究の第 4 報である。第 2 報、第 3 報と同様の手法を用いて「キリスト教の時間」の講話を通じた学生の学びについて明らかにすることを試み、改組前後で変化が見られるか否かについても考察した。すべて共同研究につき抽出は難しいが、主にコメントカードのテキスト分析および該当部分の結果の執筆を担当した。(pp. 51~59) 著者：前田美和子・加藤美帆・檜崎久美子・田中沙織 【関連授業科目：発達心理学】
(教育実践記録等) 特記事項なし				

<p>(その他)</p> <p>1. 子育てアドバイス【よくある相談シリーズ】 11月</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 11月</p>	<p>わんぱく大作戦 Web 子育てアドバイス</p>	<p>広島県や広島市の教育委員会等が後援する、テレビ新広島のわんぱく大作戦という企画の中の、Web 上での子育て相談企画において、小学生くらいの子どもをもつ保護者を対象とした子育てアドバイスの11月の回を担当した。同回のテーマは「うちの子、性的なことに興味を持ち始めました…。」で、子どもが性的なことに興味を示し始めた時の対応や考え方等について、発達心理学・教育心理学の立場からアドバイスを行った。</p>
---	----------	---------------------	-----------------------------	---

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 森保 尚美				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 「おんがくのおくりもの1」 2. 「音楽のおくりもの2」 3. 「音楽のおくりもの3」 4. 「音楽のおくりもの4」 5. 「音楽のおくりもの5」 6. 「音楽のおくりもの6」	共	令和元年 2月	教育出版社	令和2年度版小学校音楽科教科書・第1学年から第6学年用である。令和2年度改訂版では、カリキュラムマネジメントに対応することを意図し、 <u>教科横断的に扱える教材やモジュール時間を利用して使用する教材</u> も配置された。 (共同執筆・編集にて個人執筆部分抽出不可能) 監修：新実徳英 編集・執筆：伊野義博、 <u>森保尚美</u> 、他13名 【関連授業科目：音楽 初等音楽科教育法】
(学術論文等) 1. 『「身体」と「文化」に着目した音楽鑑賞授業の研究—オーセンティックな学びから捉えた授業検討を通して—』 (査読付)	単	令和元年 12月	『広島大学大学院教育学研究科紀要』第68号 (7頁)	子どもと学校音楽との関わりにオーセンティシティ(真正性)が不足していることを課題とし、解決の糸口を「 <u>身体</u> 」と「 <u>文化</u> 」に求めて実践を分析し、3つの示唆を得た。 【関連授業科目：子どもの生活と遊び 保育内容(表現Ⅰ) 保育内容(表現Ⅲ) 児童文化 初等音楽科教育法】
2. 「舞踊の身体活動を通じた音楽鑑賞に関する質的研究—『拍』概念の多様性に着目して—」 (査読付)	単	令和2年 9月	『日本教科教育学会誌』43巻2号 (14頁)	小学校の音楽科鑑賞授業において、児童が舞踊の <u>様式的運動の一部を経験することを通して</u> 、どのように舞踊音楽の「拍」概念の多様性を知覚・感受するのかについて、児童の気付きからグラウンデッドセオリーアプローチにより構造的に明らかにした。 【関連授業科目：子どもの生活と遊び 保育内容(表現Ⅰ) 保育内容(表現Ⅲ) 児童教育基礎セミナーⅡ 初等音楽科教育法】
(教育実践記録等) 特記事項なし				

<p>(その他)</p> <p>1. 「現在と過去と未来をつなぐ教材」</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 8月</p>	<p>『学校教育』8月号 No. 1224 広島大学附属 小学校学校教育研究会 (4頁)</p>	<p>広島大学附属小学校の月刊教育誌の教科探究音楽科コーナーへの執筆依頼を受けた。 『協働性』と『創造性』に関わる実践と、『文化実践としての音楽』に着目した実践について2つの事例をとりあげて教科を探究する話材とした。</p> <p>【関連授業科目：音楽 初等音楽科教育法】</p>
<p>2. 「教科書における音楽鑑賞領域の文化的視点」</p>	<p>単</p>	<p>令和元年 8月</p>	<p>日本学校音楽教育実践学会第24回全国大会</p>	<p>本研究では、1995年以降に出版され、音楽的連帯が意図された、アメリカの教科書“<i>The music connection</i>”の意図的工夫と課題を参照しながら、日本における音楽鑑賞領域の題材構成の改善について発表した。</p> <p>【関連授業科目：音楽 初等音楽科教育法】</p>
<p>3. 第57回広島県小学校音楽教育研究大会東広島大会</p>	<p>—</p>	<p>令和元年 10月</p>	<p>第57回広島県小学校音楽教育研究大会東広島大会</p>	<p>東広島市高美が丘小学校を会場に、高美が丘小学校・高屋西小学校の音楽科公開研究授業と高屋東小学校の子ども歌舞伎紹介で構成された県大会において、低学年部会の指導・助言を依頼され講評を行った。</p> <p>【関連授業科目：音楽 初等音楽科教育法】</p>
<p>4. 第3回広島市小学校教育研究会A音楽科部会</p>	<p>—</p>	<p>令和2年 1月</p>	<p>第3回広島市小学校教育研究会A音楽科部会</p>	<p>広島市小学校教育研究会に所属する90名程度の音楽科部会の招待講演である。新学習指導要領と、学会の動向をふまえて、「授業づくりの新しい視点」という演題で多文化社会における教科書の題材テーマを紹介し、これからの授業づくりの提案を行った。</p> <p>【関連授業科目：音楽 初等音楽科教育法】</p>

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 村上 智子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 未来を拓く 保育の創造	共	令和元年 10月	学術図書 出版社 (23頁)	<p><u>保育者養成校で使用するテキスト</u>である本書において「第8章保育の方法」を担当し、「保育方法の基本原理」「保育と環境」「保育の形態」「遊び場面の援助方法」「生活場面の援助方法」について、事例を交えながら解説した。(pp. 127～149)</p> <p>著者：大桃伸一・小川崇・小川澄江・請川滋大・杉浦英樹・山口宗兼・村上智子・金山美和子・木村吉彦・高橋靖幸・石井美和</p> <p>【関連授業科目：保育内容総論、保育内容指導法】</p>
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. 園庭における ままごと遊びの 環境構成と遊び の変化	単	令和2年 3月	広島女学院 大学幼児教 育心理学科 研究紀要 第6号 (15頁)	<p><u>園庭におけるままごと遊びをより豊かにする環境の構成要素</u>について考察した結果、①拠点となる空間を複数、数種類、設けること、②本物の道具や器具を取り入れること、③片づけを想定した収納棚を設けること、④自然物を幼児が使えるようにしておくこと、⑤拠点となる空間と水場は必ずしも近くなくてよいこと、の5つが挙げられた。また、これらの<u>物的環境を再構成させていくためには、幼児の遊びを的確に捉える保育者の存在が欠かせない。</u></p> <p>(pp. 31～45)</p> <p>【関連授業科目：保育内容総論、保育内容指導法】</p>
(その他) 特記事項なし				

2019 年度 教育研究業績

人間生活学部 児童教育学科 青山 翔				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 小学校における体づくり運動で行う伝承遊び	単	令和 2 年 2 月	広島女学院 大学論集 67 (12 頁)	本研究では、「エスケン」を小学校の体育の授業の体づくり運動の単元で行うことの有効性について明らかにした。
2. 保育者養成課程における幼児を対象とした運動遊びの環境構成に関する検討	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学人間生 活学部紀要 7 (8 頁)	本研究では、保育者養成課程における幼児を対象とした運動遊びの環境構成を学生自ら行うことによる効果について明らかにした。
3. 小学校体育の球技におけるゴール型ゲームパフォーマンスの差異に関する研究	単	令和 2 年 3 月	広島女学院 大学幼児教 育心理学科 紀要 6 (7 頁)	本研究では、ゴール型ゲームパフォーマンスに分類されるサッカーとバスケットボールで求められるパフォーマンスの違いについて GPAI の観点から明らかにした。
(学会発表) 1. Influence of executive function on agility and comprehensive physical ability in kindergarteners (査読付)	共	令和元年 8 月	The 19 th European Conferenc e of Developm ental Psycholog y	本研究では、幼児期の子どもの実行機能が敏捷性及び総合的運動能力に与える影響について明らかにした。 発表者：青山翔、松村京子
2. 小学校体育の球技におけるゴール型ゲームのパフォーマンスの差異に関する研究	単	令和元年 9 月	日本スポー ツ教育学会 第 39 回学 会大会	本研究では、ゴール型ゲームパフォーマンスに分類されるサッカーとバスケットボールで求められるパフォーマンスの違いについて GPAI の観点から明らかにした。
3. 小学 5 年生における実行機能がバスケットボールのゲームパフォーマンスに与える影響	共	令和元年 11 月	日本教育実 践学会第 22 回研究 大会	本研究では、小学 5 年生の子どもを対象に、実行機能がバスケットボールのゲームパフォーマンスに与える影響について明らかにした。 発表者：青山翔、松村京子

(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他)				
1. 「親子で楽しむ忍たま修行体験」協力	—	令和元年 10月	国立江田島 青少年交流 の家	当局の本教育事業に協力した。
2. 「グローバルチャレンジキャンプ in ETAJIMA」講師	—	令和元年 12月	国立江田島 青少年交流 の家	当局の本教育事業に講師としての依頼を受けて講演を行った。
3. 「幼児教育フォーラム」協力	—	令和2年 1月	国立江田島 青少年交流 の家	当局の本教育事業に協力した。
4. 「JICA ボランティアセミナー」講師	—	令和2年 2月	独立行政法人国際協力機構	当局の本事業に講師としての依頼を受けて講演を行った。
5. 「JICA 国際協力出前講座」講師	—	令和2年 2月	独立行政法人国際協力機構	当局の本事業に講師としての依頼を受けて講演を行った。
6. 「JICA 国際協力出前講座」講師	—	令和2年 3月	独立行政法人国際協力機構	当局の本事業に講師としての依頼を受けて講演を行った。
7. 「FM ちゅーピーラジオ (JICA 海外協力隊活動報告)」出演依頼	—	令和2年 3月	独立行政法人国際協力機構	当局のラジオにて青年海外協力隊の活動報告を行った。